

人と社会を支える



渓 仁 会 グループ CSRレポート

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

2016



ド渓仁会グループ 際渓仁会 禁婦渓仁会

渓仁会グループ CSRレポート 2016

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT



編集方針

渓仁会グループは、2006年から「CSRレポート」(CSR=Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)を発行し、当グループの取り組みや考え方をお伝えしています。

2016年版では、社会的責任の国際規格であるISO26000の考え方に沿いながら、渓仁会グループが続けてきたCSR経営との関連をわかりやすいよう留意して編集しています。また、活動を支える職員の姿や声を通じて、組織の現在や社会的使命、今後の方向性につながるさまざまなプロジェクトを表しています。

第三者意見は、CSR分野に詳しい駿河台 大学経済経営学部・同大学院総合政策研究 科教授 日本経営倫理学会副会長・博士(経 営学)の水尾順一氏にお願いいたしました。ご 協力いただいた皆さんの声は、当グループの今 後の事業のあり方や活動内容の検証に役立 て、CSR活動の新たな展望につなげたいと考 えています。

報告の範囲

当グループの2015年度(2015年4月~2016年3月)の活動やデータを中心に、2014年度以前や2016年度以降の活動情報も記載しています。

バックナンバーについて

「CSRレポート」のバックナンバーおよび各病院・施設・事業の実績データを収載した「年次報告書」は、当グループのWebサイト上で公開しております。 URL http://www.keijinkai.com

次回発行について

次回CSRレポートは、2017年11月を予定しています。

●発行

医療法人渓仁会 法人本部 2016年11月

●お問い合わせ先

医療法人渓仁会 法人本部

医療福祉連携部 広報課

〒006-0811

札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 渓仁会ビル3F

TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501 E-mail editor0110@keijinkai.or.jp

CONTENTS

渓仁会グループの社会的使命	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	P06
渓仁会グループの事業理念		P07
特集 Human Story 私たちのAction		P08
2015年度 活動報告		
7 Challenges		P14
〈消費者課題〉みんなの笑顔のために。		P16
ステークホルダーダイアログ		
次世代が考える社会的責任活動 〜職員が考える未来の渓仁会グループのCSR活動とは〜・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		D2/I
〈コミュニティへの参画およびコミュニティの発展〉手を取り合って、元気の輪をつくろう		
(人権) 一人ひとり、みんなが大切。	•••••	P34
それは一人ひとりが輝いてこそ		P37
〈労働慣行〉支えて、支えられて、もっと強く。		P40
〈公正な事業慣行〉信頼される仕事を続けるために。		P46
〈環境〉豊かな環境を、未来へ。		P48
〈組織統治〉一つの意思で、一つの目標へ。		P52
数字で読み解く渓仁会グループ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		DE 4
ダチで説の所へ渓に云ノルーノ 「ずーっと。」の意味······		
TOP MESSAGE	n	
新たな経営ビジョンのもとで変化の時代を乗り越える挑戦	友を	DCO
渓仁会グループ最高責任者 医療法人渓仁会 理事長 田中 繁道	•••••	P60
第三者意見		P62
ISO26000対比表 ·······		P63
医療・保健・福祉サービスの用語集・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		P64
渓仁会グループマップ		P68
渓仁会グループー覧		P70

渓仁会グループの組織と事業·····P04

【シンボルマークについて】

渓仁会の頭文字であるKをモチーフに、当グループ

の理念を表現しています。その形状は人と人の支え

合いに基づいた「安心感と満足の提供」、勢いよく

真っ直ぐに立ち上がるさまは「変革の精神」を表して

います。ブルーのカラーリングは、「プロフェッショナル・

マインド」および「信頼の確立」をひたむきに追求

する、誠実さをイメージしています。

渓仁会グループの組織と事業

医療・保健・福祉を途切れることなくつなぎ、 生涯にわたって安心を支える サービスを提供しています。

私たち渓仁会グループは、創立以来札幌市を中心に、

医療法人・社会福祉法人・ヘルパーサービス・福祉用具サービス会社などを運営し、

地域の皆さまの医療・保健・福祉を支え続けてきました。

グループの各事業が相互に連携して切れ目なくサービスをつなぎ、

地域の皆さまの生涯にわたるさまざまな場面で、健康で安心な暮らしをサポートしています。



治療とケア

乳幼児からご高齢者まで、

最新医療技術と機器を備え、 総合医療を提供しています。

- ●手稲渓仁会病院(手稲区)
- ●手稲渓仁会クリニック(手稲区)
- ●手稲家庭医療クリニック(手稲区)



介護·社会復帰·生活支援

住み慣れた家庭や地域で生活できるよう、 介護・福祉のサービスを提供しています。

- ●特別養護老人ホーム
- ・コミュニティホーム 西円山敬樹園(中央区)
- ・月寒あさがおの郷(豊平区)
- ・菊水ごまちの郷(白石区)

岩内ふれ愛の郷

コミュニティホーム八雲

美唄市東地区生活支援センター すまいる

- 岩内ふれ愛の郷(岩内町)
- ・きもべつ喜らめきの郷(喜茂別町)
- ・るすつ銀河の杜(留寿都村)
- ・手稲つむぎの杜(手稲区)
- ●介護老人保健施設
- ●ケアハウス(軽費老人ホーム) カームヒル西円山(中央区)

きもべつ喜らめきの郷

- ●グループホーム
- ・西円山の丘(中央区)
- ・白石の郷(白石区)





a de la companya de l

コミュニティホーム美唄











療養とケア

- 看護・介護・リハビリテーションを
- 中心とした医療サービスを提供しています。
- ●札幌西円山病院(中央区)
- ●定山渓病院(南区)



地域医療

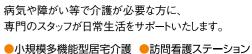
公立診療所の指定管理者として、 地域の医療を支えています。

- ●泊村立茅沼診療所(泊村)
- ●喜茂別町立クリニック(喜茂別町)









●訪問介護

- ●地域包括支援センター
- ●介護予防センター・ 介護予防サロン
- ●通所介護(デイサービス)
- ●認知症対応型通所介護
- (デイサービス)
- ●指定居宅介護支援事業所 ●札幌市障がい者相談支援事業所・ 札幌市障がい者住宅入居等支援事業所





(ホームヘルパーステーション)

●福祉用具のレンタル・販売

株式会社ハーティワークス(白石区)



医療法人稲生会







おおしまハーティケアヤンター



社会の中で生き生きと過ごせるよう、障がいを抱えた 小児患者さんを中心にさまざまな面から支援を行います。

株式会社ハーティワークス

●医療法人稲生会



病気の早期発見、健康管理、 予防に関するサービスを提供しています。

●渓仁会円山クリニック(中央区)

04 | 渓仁会グループCSRレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 | 05

iC

渓仁会グループの社 会的使命

「ずーっと。」 人と社会を支える

私たち渓仁会グループは、 社会的責任(CSR)経営を推進します。 高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、 「一人ひとりの生涯にわたる安心」と 「地域社会の継続的な安心」を支えます。

2014年10月1日制定

渓仁会グループの事業理念

安心感と満足の提供

Offering a Sense of Security and Satisfaction

プロフェッショナルマインドの追求

Attaining a Professional Mind

信頼の確立

Building the Foundations of Trust

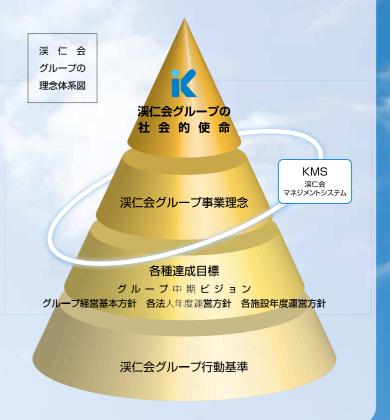
変革の精神

Developing the Spirit of Change

グループ経営の理念とその体系

私たち渓仁会グループは、「ずーっと。」を合言 葉にCSR経営を推進してきました。この「ずーっ と。」を具体的な理念として規定し、社会的責任 をグループ全体で約束し、実現していくために、 2014年10月1日に「渓仁会グループの社会的 使命」を制定しました。医療・保健・福祉のサービ スの質(公益性)を「人」、経営の質(継続性)を 「社会」という言葉で表現しています。

「渓仁会グループの社会的使命」は、事業理念や各種達成目標の上位概念として、経営の根幹を成すものです。また、渓仁会マネジメントシステム(KMS、P53参照)を、私たちの活動全体を支え、CSR経営を確かなものにする取り組みとして位置づけています。



新たなぜんそく治療の導入によって 患者さんの選択肢を広げていきたい。

ぜんそくの治療を適切に受けていても、発作が出て しまう。そうした重症な患者さんの症状を緩和するため の治療法が注目されています。気管支サーモプラスティ (BT=Bronchial Thermoplasty)は、気管支の中に 内視鏡を入れ、カテーテルで気管支の内側を65℃に 温めることで周囲の厚くなった筋肉を減少させ、筋肉 が収縮する力を弱めるという技術。気管支が狭くなり にくく、ぜんそくの症状を抑えることができます。日本で は2015年4月から保険適用となった新しい治療法で、 手稲渓仁会病院の呼吸器内科では、2016年度から 北海道で2番目となるBTへの対応を始めました。

菅谷文子呼吸器内科部長は、同病院で20年以 上にわたり呼吸器の治療に尽力してきました。専門は ぜんそくなどのアレルギー疾患で、多くの専門医や指 導医の資格を持ち、臨床研究にも携わっています。 BTの導入については「対象となるのは18歳以上の 方など、適応条件はありますが、患者さんの治療の選 択肢を広げるという意味では、新しい技術を取り入れ ることも重要だと考えています」と評価します。

体への負担が少ないとされるBTですが、同科では 万全を期すため、当面はリスクの低い患者さんから治

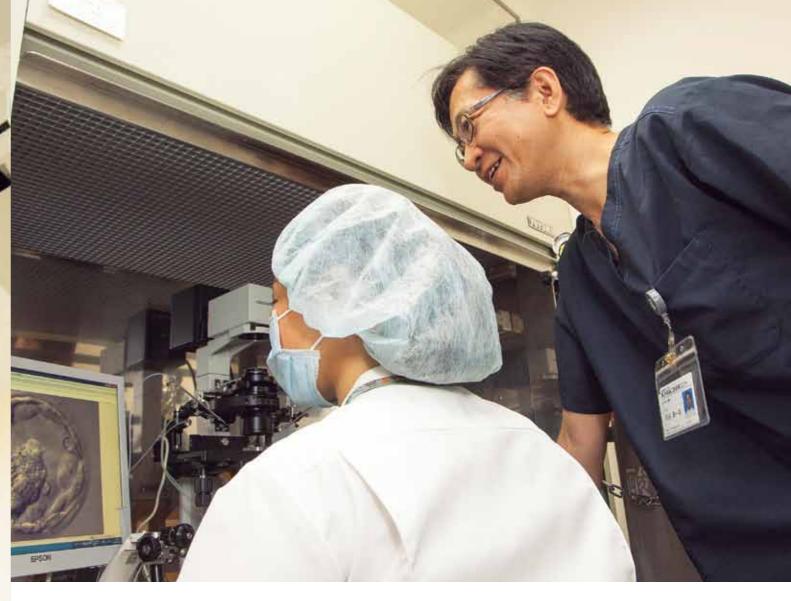
療を行うことにしています。今年の6月末までの実施の うち、1例は麻酔科の協力を得て全身麻酔にて実施 しました。菅谷部長は「不測の事態が起こり得ること を想定し、診療科の垣根を越えて協力体制を築いて います。また、ほかの病院との情報交換なども行い、 治療のレベルアップに努めています」と説明します。

技術や薬剤の進歩によって、これからはより多様な アプローチが可能になる、と菅谷部長。将来的には 多職種によるチーム医療の体制を進めていきたいと 展望を語ります。「患者さんの生涯を見据えた治療の マネジメントをすることも医師としての役割。最善を尽 くすと同時に、その方にとって本当に最適な医療とは 何かを考え続けています」

CAUSE SERVE

Hit Rot.







和田 真一郎

子どもを授かる可能性を開き、 家族、そして一人の人生に寄り添う生殖医療



出産は家族の喜びの時である一方、不妊に悩む夫 婦もいます。特に晩婚化が進んだ昨今では、不妊を治 療する、生殖医療の重要性が増しています。手稲渓 仁会病院の産婦人科は、さまざまなケースの不妊治 療に対応しています。和田真一郎産婦人科主任部 長は、生殖医療の黎明期から携わり続け、同病院の 産婦人科医療を牽引する一人です。

「この3年間の胚移植での妊娠率は、34歳以下で は35%です。40歳以上の症例でも、15%となってい ます」。その実績は、常に新しい技術を取り入れること で向上を図っています。生殖医療専門医を交えての 週1回のカンファレンスでは、より良い治療を選択。さら に妊娠後、分娩まで継続的に診られることが強みです。 「不妊治療はハイリスク妊娠の確率が上がりますが、 NICU(新生児特定集中治療室)を有する当病院は しっかり対応できます」と和田主任部長は説明します。

む予定です。抗がん剤でダメージを受けがちな生殖機 能を守るためです。さらに腹腔鏡で卵巣組織を採取し て機能保存を図る方法も展開していく予定です。「卵 巣組織の保存は新しい技術で今後も検証が必要で す。しかし未成年など卵採取ができない場合も考え、さ まざまな選択肢を用意したい」と和田主任部長は話し ます。

不妊治療は同時に、精神的・経済的負担が大き い治療でもあります。「多くの方が悩まれるのは、望む 結果が得られないときにいつやめるか。患者さんが納 得できる結論を出すためには、一方通行ではない情 報提供が不可欠です」。患者さんに寄り添う生殖医 療を提供できる医師、多方面から患者さんを支える 多職種チームを育てることが大切と和田主任部長は 考えます。「今後は人材育成を進め、生殖医療をセン ター化するのが目標です。仕事の合間にも通院治療 を行うなど、患者さんの利便性も上げたい」と意欲に 燃えています。



渓仁会グループの活動は、

職員一人ひとりの思いが重なり生まれるものです。

"\ction

地域やグループにとって重要なプロジェクトや、

質の高いサービス提供を進める

職員たちの「アクション」と、

その背景にある思いを紹介します。

今後は、乳がんや血液疾患などの化学療法を行う 前に卵や胚(受精卵)の凍結保存に積極的に取り組

新病院開設準備室 室長

地域の拠り所となり、必要とされる施設へ。 リハビリから地域を支える新たな挑戦。

私たちの /#\ction

高齢化が進むなかで、住み慣れた地域でいつまで も暮らすには、住まいがあり、医療や介護、介護予防、 生活支援が一体的に提供される仕組みが必要です。 その実現をめざし、2017年6月に「札幌渓仁会リハビ リテーション病院」が開院します。急性期治療後の患 者さん、在宅や施設から急変した患者さんを早期に受 け入れ、地域に戻るまでの治療を担う回復期の病院 です。「私たちの役割は、リハビリテーション医療を通じ て在宅生活の安心を支えること」と開設に向け指揮を 執る新病院開設準備室の横串算敏室長は話します。

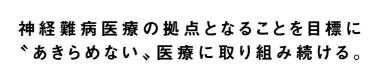
横串室長は、大学卒業後に小児外科・療育に興味 を持ち整形外科分野へ。後に"北海道のリハビリテー ションの父"と呼ばれた師との出会いによりリハビリ医 への道を歩み、「障がいを通してその人の生活や人 生、住む地域や社会にかかわるという視点を学びまし た と振り返ります。2005年からは札幌西円山病院 で生活期のリハビリに携わり、やがて地域リハ・在宅リ ハを含めた、地域包括ケアシステムの実現へと傾注し ていきます。

新病院では患者さん中心の医療のモデルを築くた め、多職種チームでケアを行います。「専門は分かれ ていても、患者さんから見れば皆同じ『病院の人』。一 人ひとりが真の医療者として患者さんにかかわること が重要ですと横串室長は言います。

また、病院としての機能以外にも、地域の拠点とな る施設をめざします。地域の方が福祉用具について



札幌西円山病院 神経内科総合医療センター 千葉 進



** * 9



脳や末梢神経、脊髄などの異常を引き起こす神経 疾患は難治性のものが多く、神経難病の大半は治 療法がないとされています。札幌西円山病院では神 経難病などで入院される患者さんに専門的な医療を 提供し、高い評価を受けてきました。そうした実績から、 2016年4月に神経内科総合医療センターを開設。 外来を含む幅広い患者さんへの治療を開始しました。

同センターで陣頭指揮を執る千葉進センター長は、 26年間にわたり大学病院の神経内科でさまざまな疾 患の治療に携わってきました。その後、民間病院を経 て同センター長に着任。「患者さんにとって必要だと 思うことは何でもしようというのが私の信条。当病院に は、診断・治療を行う一般病床や、長期療養のための 療養病床があり、さらに在宅支援や看取りまで行って います。ここには私が理想とする、患者さんをトータル で診る、という医療を実現できる環境があると確信して います」と自身がめざす医療への思いを語ります。

同センターは外来診療と同時に、病棟での患者さ んの治療も担当しています。千葉センター長は、看 護・リハビリテーション・介護スタッフなどとも連携しな がら、充実した診療体制を築いていきたいと言います。 「新しい治療法が開発され、根治はできなくても、適 切な治療で病状が改善できるケースも増えています。 内科的なかかわりを誠実に続けていけば、患者さんの 療養生活の質は変えられると考えています」

千葉センター長は神経内科医の育成にも情熱を 傾けています。同病院には幅広い経験を積める環境 があり、専門医の育成の場としても魅力的だと話しま す。すでに全道の医療機関から患者さんの紹介を受 けており、外来診療の増加が予想されることから、若 手の医師も増やしたいとしています。

「将来は、北海道の神経内科医療の拠点と言われる ような存在になりたい。そのためにもさまざまな得意分野 を持つエキスパート集団をつくっていくのが目標ですし







櫻田 詩織

障がいがあっても自分らしく働ける。 利用者さんの笑顔が仕事の原動力です。

積極的に利用者さんとコミュニケーションを図り、少し ずつ信頼関係を築いてこられたことも自信になりまし た。今でも緊張感はあるそうですが、「楽しく仕事がで きている」と笑います。

毎日、さまざまな利用者さんと触れ合うなかで櫻田さ

私たちの #\ction

に声に出して言ってくださいね」。明るく、はきはきとし た声が室内に響き渡ります。利用者さんに笑いかけな がらレクリエーションを提供しているのが介護職員の 櫻田詩織さんです。 る組織をめざし、渓仁会グループは障がいのある人

「皆さん、今からことわざを読み上げますから、一緒

さまざまな人が能力や適性に応じて働くことができ を積極的に雇用しています。軽度の知的障がいのあ る櫻田さんは2013年に菊水こまちの郷に入職。主 に「通い」の利用者さんへのレクリエーションの提供 や、介護業務のサポートなどを担当しています。

「介護の仕事に関心を持ったのは、当施設の職員 募集を見て、足が不自由な祖父とよく話をしたことを思 い出したからでした。介護の経験はないけれどやって みたい、と強く心を動かされました」

初めは不安やとまどいがあったという櫻田さんです が、同僚職員のサポートやアドバイスを受け、仕事の 進め方を一つひとつ覚えていきました。また、自分から んが大切にしているのが、相手のちょっとした変化に も気づくようにすることです。「体調が悪そうな方がい ればすぐに同僚に報告して対応したり、わずかなことで もいつもと違うなと感じたら『どうしましたか』と声をかけ たり。話を聞くように心がけています」。以前は、あまり 人と話すタイプではなかったそうですが、仕事を続ける うちに自然と会話が弾むようになり、自分の成長を実 感していると言います。

「介護というのは、人に喜んでいただけるすばらし い仕事。利用者さんの笑顔を見ると、ここで働いてよ かったと感じます。レクリエーションの内容やかかわり 方などをもっと工夫して、笑顔の絶えないサービスを提 供していきたいと思います」

社会福祉法人渓仁会 手稲渓仁会デイサービス織彩 木村 むつみ

より専門性の高いケアをめざしながら、 認知症への理解を深めるための活動を。



国民の4人に1人が65歳以上という超高齢社会を 迎えた日本。それに伴って認知症の患者さんの数も 増え続け、専門的な支援体制の構築が急がれていま す。2014年に開設された「手稲渓仁会デイサービス 織彩 | は、認知症に特化したプログラムやケアを提供 する認知症対応型デイサービスです。定員12名という アットホームな雰囲気のなか、専門知識を身につけた スタッフが細やかなサービスを行っています。

木村むつみ所長は2003年に手稲渓仁会デイサー ビスに入職して以来、高齢者のケアに携わってきまし た。「介護現場で働いたことはなくゼロからのスタート でしたが、利用者さんとの日々のかかわりが本当に楽 しく、この仕事にひきつけられていきました。『やるなら とことん』という気持ちで介護福祉士や社会福祉士、 ケアマネジャーなどの資格も取り、利用者さんのサー ビスに少しでも役立てることを考えてきました」

織彩ではスタッフが認知症の勉強を重ね、専門性

の高いケアを行っています。所長はこれまでも認知症 の利用者さんとかかわってきましたが、「勉強すればす るほど、足りないことや反省点が見えてきた」と言いま す。そこで重視しているのがエビデンス(医学的根拠) に基づくケアです。例えば、一日のプログラムにも目的 と根拠を設け、より効果的なサービスを提供するよう に心がけています。また、ご家族やかかりつけ医など、 利用者さんを取り巻く人たちとの連携も図りながら、生 活全体を支えるケアをめざしています。

もう一つ、所長が力を注いでいるのが認知症への 理解を深める活動です。昨年、地元の小学校でボラ ンティア体験と認知症サポーター講座を実施したとこ ろ、予想以上の反応があり、今年も継続して行うこと になりました。「子どもや地域の人たちがふらりと立ち 寄ってくれるような、織彩をそんな場所にしたいしと目を 輝かせる木村所長。地域とともに認知症の方を支え るための歩みが始まっています。



CSR活動の原点は、地域社会や時代のニーズにあります。 地域の医療、保健、福祉に生まれるさまざまな課題に挑み、 活動で得た経験からさらに事業を改革・改善していくことで、 医療、保健、福祉のイノベーションへとつなげていきます。

渓仁会グループのCSR経営とISO26000

渓仁会グループは、『「ずーっと。」人と社会を支える』という社会的使命の実現をめざします。「一人ひとりの生涯にわたる 安心」と「地域社会の継続的な安心」を支えるためには、渓仁会グループもまた持続性を追求しなければなりません。

公益性の高いサービスと、継続性の高い経営を両輪で進めるために、渓仁会グループは2004年からCSR経営を進めています。そして2011年からは、CSR経営をより確実に実行するための枠組みとして、社会的責任ガイダンスの国際規格「ISO26000」を意識したルール・仕組みづくりを行っています。

ISO26000 Guidance on social responsibilityは、認証を目的としたマネジメント企画ではなく、組織が社会的責任を果たすための「手引き」となっています。ISO26000には、社会的責任を実践していくための具体的内容として「7つの中核主題」が設定されています。7つの中核主題とは、「消費者課題」「コミュニティへの参画およびコミュニティの発展」「人権」「労働慣行」「公正な事業慣行」「環境」「組織統治」です。

ISO26000に基づいてグループの活動をチェックし、そこから生まれた課題をクリアしてさらにCSR活動の積極的な展開へとつなげます。CSR活動の展開が地域住民からの信頼を得て、それが渓仁会グループのブランド力につながり、職員の働く喜びや誇りを生む。この循環を続け、渓仁会グループは地域と共に持続的に発展するよう努めています。



14 | 渓仁会グループCSRレポート2016 | 15

7 Challenges 消費者課題 66 6 7 みんなの笑顔のために。 安心して暮らせる地域には、医療、保健、福祉のすべての機能が不可欠です。 渓仁会グループは、それらを一体化したサービスにより、地域に貢献することが 使命です。各事業所が質の高さを追求し、グループ内外に強い連携の輪を築い ていくことで、より地域の方々の安心につなげられるよう、日々努力しています。 2025年の必要病床数推計(札幌) 札幌(床) 渓仁会グループ(床) 40.000 2.000 1.750 35,000 1.500 30.000 1,250 25.000 26.580 20,000 1.000 750 500 10,000 9.685 5.000 250 2013年 基準病床数 病床機能 2025年の 渓仁会 (医療計画) 超生制度 心要病床数 2015.7.1現在 慢性期 回復期 急性期 - 高度急性期 瘠養病床 【参考】2025年の必要病床数推計(札幌) 2014年度から病床機能報告制度が始まり、医療機関の各病棟がど の機能を担うかデータを集めた結果、地域内での機能の偏りや、今後 必要とされる機能が数字上に見えてきています。渓仁会グループは今 後ニーズに基づく病床転換も視野に入れつつ、介護・福祉と一体化し たサービスの強化により、地域の安心を守っていきます。 16 | 渓仁会グループCSRレポート2016

Challenge

質の高い急性期医療を実現するためにハード・ソフト両面の改善を計画

新棟完成でより質の高い医療を実現 —— Tプロジェクト [手稲渓仁会病院]

手稲渓仁会医療センターは、高度先進医療への対応や 療養環境の向上を図るため、5年間の事業計画「Tプロジェク ト」を立ち上げ、ハード・ソフト両面の拡充や改修を進めていま す。2015年11月にはプロジェクトの中心となる新棟(F棟)が 完成。12月から稼働しています。

F棟の完成によって、全病床数は656床になりました。今後 は既存の病棟にある2人床を個室に、5人床を4人床に改修 し、2017年には全体の病床数を670床にする予定です。本 プロジェクトの責任者である熊谷章副院長は「既存棟も含め



F棟2階手術室

たアメニティの改善で、入院患者さん の療養環境のさらなる向上をめざした い」と話します。

F棟の1階には、外来患者さんの利 便性に配慮し、腫瘍内科・外来化学 療法室・人工透析室などが配置され ています。また、2階には既存棟の手 術室と結ばれた手術室を3室設置。



手稲渓仁会病院 副院長 熊谷 章

手術支援ロボット「da Vinci S 専用の手術室を設け、高度 急性期医療への対応を強化しています。

2015年6月に一部のサービスを開始した「患者サポートセ ンター は、2016年10月から本格稼働しています。外来や入 院、手術などに伴う手続きや相談をワンストップサービスとして 行うことで、より安心していただけると思います。

「地域に根ざした中核病院として、高度な医療を提供できる 体制を追求するのがTプロジェクトの目的。組織の強化や人づく りも含めて取り組んでいきたい」と熊谷副院長。今後も地域を 担う急性期病院として、より質の高い医療を追求していきます。

プロジェクトを推進し、高度医療の拡充と療養環境のさらなる向上をめざす

院長メッセージ



手稲渓仁会病院 院長 成田 吉明

高度急性期病院としての機能を強化し 患者さんや医療機関から選ばれる存在に

2015年末に新棟であるF棟が完成し、快適な療養 環境の実現やスムーズな専門医療の提供が可能にな りました。手術室の増設やICUの増床も行い、高度急 性期病院としての機能もより強化されています。また、念 願であった救命救急センターの増床が認可され、12月 より30床体制に拡充しました。

ハード面の強化に加え、他の病院の先駆けとなる高 度先進医療にも積極的に取り組んでいます。2014年 に北海道内で第1例として行ったTAVI(経カテーテル 的大動脈弁留置術)は、順調に実績を伸ばし、2015 年度までに34例を実施しました。また、手術支援ロボット 「da Vinci S」の先駆施設として、他の病院での指導 や支援なども行っています。当病院が培った技術や知

識を広くお伝えすることで、北海道全体の医療の向上 に貢献することも大切な役割だと考えています。

現在、重視しているのは、地域がん診療連携拠点病 院として、がんの早期発見にも取り組んでいくことです。 その足がかりとして、祝日に乳がん検診を実施していま す。一人でも多くの方に受診していただき、病気の早期 発見や不安の解消につなげていきたいと思います。

当病院は地域の基幹病院というだけでなく、北海道 の医療を支える責任も担っています。これからも進化を 続け、患者さんや連携する医療機関から選ばれる存在 でありたいと考えています。

道央地域の広大な範囲の救急医療をカバーする

道央地域の生命を守り、支える 道央ドクターへリと救命救急センターの取り組み

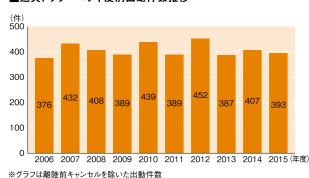
[手稲渓仁会病院]

| 道央ドクターヘリが防災演習に参加 災害に備え関係機関と連携を進める

手稲渓仁会病院は2005年から道央ドクターヘリの基地病 院となり、おおむね半径100kmを基準に石狩・後志・空知地 域を中心に広く道央圏を運航しています。2015年には運航 10周年を迎え、10年間で4.072件(出動要請5.757件)の 出動を受け無事故で運航を続けてきました。

また、ドクターヘリは10年の間に道北、道東、道南にも配備 され、4機で全道をカバーしています。道央ドクターヘリはその パイオニアとして、ドクターヘリに乗り込み処置を行う、フライト ドクターやフライトナースの育成にも力を入れ、救急の現場で 活躍する人材を輩出してきました。

■道央ドクターへリ年度別出動件数推移





水防演習の訓練終了後には、地域住民にドクターヘリの展示を実施しました

ドクターヘリは、災害現場や救助でその機能が必要とされ る場面が今後想定されます。そのためには各機関との連携 をスムーズに行うことが重要です。2015年6月20日には、石 狩・空知管内の10市町、北海道、北海道開発局が主催する 「平成27年度石狩川水系夕張川総合水防演習」に参加し ました。長沼町で行われたこの演習は、夕張川が氾濫した想 定のもと、河川巡視から避難、水防、救助など、収束までの一 連の流れを訓練するものです。道央ドクターへリは重傷者の 初期治療と救急搬送の役割を担いました。

|救命救急センターを増床 救急患者受け入れの強化へ

ドクターヘリを含め、搬送された重篤な救急患者さんの治療 に当たるのが救命救急センターです。2005年4月に道央圏 の新型救命救急センターに指定され、年間2万人超の患者 さんを受け入れています。また、手稲渓仁会病院では、軽症に 見えて、重大な疾患が隠れている方に必要な医療を届けるた め、重症患者さんだけでなく、自力で来院される軽症・中等症 の方の救急診療も行っています。

2015年12月、開設以来10年の実績が評価され、30床 への増床が認可されました。そこで従来ハイケアユニットとし

て使用していた12 床を救命救急セン ター病床に転換し ました。

より、救急医療に

人材育成を進め、より多様な場面での救命救急医療の提供に備える



増床したことに 新たに転換した4F病棟は12床中9床が個室で、 感染症患者さんに対応する陰圧室2床も備えます

携わる人材育成が一層必要となります。幅広い救急医療を 実践できる環境を活かして現場に必要とされる人材を養成し、 今後も道央圏の救命救急医療に貢献していきます。

Challenge

被災地への支援と、地域の災害医療の構築という使命

東日本大震災から5年、節目に振り返る 渓仁会グループの震災支援と災害への備え

「渓仁会グループ】

被災地への継続的な支援とともに 地域での災害に備えを進める

2011年3月11日の東日本大震災から、2016年で丸5年 がたちました。未曾有の災害を前にして、発生時の支援だけ でなく、医療、保健、福祉機能が破壊された被災地への継 続的な支援をいかに行うか、そして自らの地域でいかに災害 に備えるか……地域の医療、保健、福祉に携わる者にさまざ まな課題が投げかけられました。

渓仁会グループの各事業所では、この5年間にさまざまな形 で被災地の支援活動を行ってきました。また、それぞれが防災 意識を高め、地域で災害が起こった際の拠点となるべき体制 を強化してきました。

手稲渓仁会病院

●DMATの活動

手稲渓仁会病院の災害派遣医療チーム(DMAT)は2007年に 発足。東日本大震災が組織後初の派遣となり、1チームが岩手県で の医療支援活動に従事しました。その後も国や地域で行われる合同 訓練に参加するだけでなく、2012年からは独自の訓練を開始し出動 に備えてきました。

2016年4月14日、16日に発生した熊本地震においても出動し、他院6 チームと合わせて北海道DMATとして現地での医療支援を行いました。

●院内総合防災訓練

行うことができました。

手稲渓仁会病院は2011年11月に地域災害拠点病院に指定さ れています。災害時の高度な救命医療機能、被災患者さんの受け入 れや広域搬送、地域の医療機関の支援などの機能が求められること から、院内マニュアルの整備をはじめ数々の見直しを行ってきました。

2015年10月10日には、病院全体の規模での被災者受け入れ災

害訓練を行いました。傷病者役として 他院の看護師や医療系学生、また手 稲消防署の救急隊員にも協力をいた だき、本番さながらの充実した訓練を

札幌西円山病院

●復興者支援ボランティア活動

札幌西円山病院ではリハビリテーション部が中心となり、2011年 度より継続して復興者支援ボランティア活動を行っています。リハビリ スタッフが2人1組、5日間交代で現地に向かい、仮設住宅での運動

支援や医療機関でのリハビリ支 援など、それぞれの職能を活かし た活動を行っています。

2015年は11月9日~12月 11日の間に10名のスタッフを 派遣し、延べ50日間活動を行い ました。



社会福祉法人渓仁会

●被災法人への職員派遣

社会福祉法人渓仁会は、全国社会福祉法人経営者協議会の要 請により、職員不足が続く被災地の福祉施設へ応援として職員派遣 を行いました。2016年1月9日~2月17日の6週間、看護職1名と介 護職2名の職員が2週間交代で勤務し、トイレ介助、おむつ交換、ベッ ドからの移乗介助、シーツ交換、食事介助、環境整備などに従事しま した。(詳細P39参照)

被災を経てなお地域の拠り所に おおしまハーティケアセンター

宮城県気仙沼市の離島「大島」で、渓仁会グループが唯一道外で運営する施設「おおしまハーティケ アセンター」も、大震災では津波の浸水被害を受けました。利用者さんと職員は高台の小学校に避難し 全員無事。職員は避難直後から利用者さんや高齢の方のケアに当たり、4月には 仮設のデイサービスを開始しました。

同センターは復旧工事を急ぎ、同年9月にデイサービスを、10月にショートステイ を再開。過疎化と高齢化が進む大島で、介護予防や、地域住民の数少ない交流 の場としても機能しながら、高齢者とそのご家族を支えています。



被災地への継続的な支援と、地域や関係各機関と一体となった防災体制の構築

18 | 渓仁会グループCSRレポート2016

渓仁会グループCSRレポート2016 | 19

施設の改修や医療機器の更新による医療体制の強化が必要に

より質が高く、快適な医療環境へ―― Nプロジェクト [札幌西円山病院]

札幌西円山病院では、信頼される医療、介護、福祉サービ スの提供と誇りが持てる職場環境の実現をめざし、2012年 より「Nプロジェクト」に取り組んできました。同プロジェクトでは 病棟の改修やアメニティ環境の改善、最新医療機器の導入 や病棟機能の強化に向けた体制整備などを行い、サービス の質の向上や職場環境の改善を図っています。

2015年度は、検査機能を強化するために最新のCT装置 (16列マルチスライスCT)を導入。同時にCT室の改修を行 いました。これによって、撮影時間が短縮され、被ばくを低減し ながらより正確な画像情報を迅速に提供することが可能にな りました。また、CT室内が拡張されたことで、患者さんの移動 や移乗がスムーズになりました。

11月末には西棟3階病棟の改修工事が完了し、101床あ った病床を60床の「医療療養病棟」に転換しました。従来の 4人部屋を3人部屋に変更し、療養環境の向上を図っていま す。また、この改修に伴い、病棟全体を見渡すことができるフ ロアの中心にナースステーションを移設。さらに、患者さんとご 家族がくつろげるラウンジなども新設しました。



新たに導入されたCT装置

CT操作室の様子

こうしたハード面の改修に加え、病院機能の強化に向けて 具体的な検討を行う5つのチームが発足。病棟再編や退院 支援、在宅連携推進など、それぞれのテーマについて話し合 いを重ね、より質の高いサービスをめざして活動しています。

新たな医療やサービスの展開を検討し、地域ニーズに応える病院へ

院長メッセージ



札幌西円山病院 院長 浦 信行

積み重ねた専門的な知見を活かし 高齢者医療の新たな地平を開きたい

当病院は開院以来、高齢者医療やリハビリテーショ ン医療を中心とした慢性期医療に取り組んできました。 近年は高齢者医療への関心が高まっていますが、急性 期医療とは特性が異なる独立した分野であることは、 医療の世界でもまだあまり知られていません。当病院で は、これまで培ってきた高齢者医療の知識や経験をもと に、「本当の高齢者医療」を知ってもらう活動を始めまし た。医療公開講座や地域のかかりつけ医への情報提 供などを通して、理解を広げていきたいと考えています。

新たに外来診療への取り組みも始めています。専門 医や各分野のスタッフの専門領域を活かし、生活習慣 病と摂食・嚥下の外来を開始。さらに2016年4月に「神 経内科総合医療センター | を開設しました。CT装置や MRIなどの検査機器も充実しており、疾患の迅速な診 断や早期治療が可能になっています。ぜひ、多くの方に 利用していただきたいと思います。

今後、取り組みたいと考えているのが認知症への対 応とがん治療です。認知症はケアチームをつくり、専門 性の高いかかわりを開始しました。また、がん治療は急 性期の治療を終えた後のリハビリテーションや一部の 治療、緩和ケアなどの提供を検討しています。

当病院は高齢者医療の草分けとして、その新たな価 値を切り開く責任があると考えています。地域とのコミュ ニケーションを大切にしながら、社会ニーズに応える活 動を続けてまいります。

Challenge

設備やサービスの見直しによって受診者・利用者の利便性向上を図る

サービスの向上をめざしハード・ソフト面をリニューアル

「渓仁会円山クリニック]

渓仁会円山クリニックでは、来院して健康診断を受けられな い方のために健診車による巡回健診を行っています。検査機 器を積んだ健診車で職場を訪問し、定期健診や生活習慣病 健診を実施。血圧や心電図、視力、聴力といった検査から、胃 や肺のレントゲン検査、血液検査まで、充実した検査をその場 で一括して受けられることから、地方の町村や離島など、全道 各地からも巡回健診の依頼があります。

2015年度は検査をよりスムーズにするために、新しい健診



車を導入しました。従来より機能が充実したため、1台で高度 な検査までできるようになりました。内部もプライバシーに配慮 したつくりで、快適に検査を受けていただけます。

また、同じく2015年度にメディカルフィットネスの会員システ ムをリニューアルしました。従来の「健康診断によるメディカル 面のチェック」→「身体状況に応じた健康運動指導士による 個別の運動プログラム作成・指導 という流れに加え、新たに 「管理栄養士による栄養相談・食事バランス診断」を実施。 健康診断の受診より3カ月後と9カ月後に、無料で管理栄養 士から栄養面の指導を受けていただけるようになり、生活習 慣病の改善に向けたサポート体制が充実しました。

同クリニックでは施設やサービスの見直しと利便性の向上



を図り、皆さまの健康 を守る取り組みを続け ていきます。

メディカルフィットネスのプログ ラムに管理栄養士による指導

新しく導入された健診車

地域の方々の健康を守るために検査精度の向上や個々に応じたきめ細かな指導に取り組む

院長メッセージ



渓仁会円山クリニック 道家 充

検査精度の向上とフォロー体制の充実に努め 地域の健康を守るという使命を果たす

日々の健康を守り、病気の早期発見や予防、生活習 慣病の抑制に役立つのが定期的な健康診断です。当 クリニックでは健康の維持・向上を担う健診施設として、 企業や地域と提携した保健事業に取り組んでいます。

近年は利便性や快適性の向上をめざし、施設のリ ニューアルを行ってきました。検査機器や検査体制の 充実も図り、サービスの改善を図っています。また、信頼 性の根拠となる第三者評価の更新も続けています。

地域の信頼に応えるには、検査の精度を高めること が最も重要です。医師や検査スタッフのスキルアップを はじめ、結果を正確にチェックする診断システムなど、検 **査体制の向上に取り組んでいます。**

今後、強化すべき取り組みの一つが、診断後のフォ

ローです。現在は検査から結果が出るまで数時間を要 するため検査が終わると帰られる方が多く、対面して結 果を説明する機会が少なくなっています。迅速に検査 結果を出すことで、対面で説明する割合を増やし、きめ 細かなフォローをすることが目標です。また、それがリピー ト率の向上にもつながると考えています。

昨年12月に職場での「ストレスチェック制度」が義 務化されたことに伴い、当クリニックでも対応を始めまし た。産業医による面談や指導などを含め、社会の動向 に合わせたサービスを行っています。こうした新しいニー ズにも応えながら、健診施設としての役割を果たし、健 康づくりに貢献したいと思います。

20 | 渓仁会グループCSBレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 21 介護老人保健施設の役割として、利用者さんの在宅復帰に向けた支援機能の強化が必要に

ご自宅への復帰に向けた支援体制の構築

「コミュニティホーム白石]

高齢になっても住み慣れた地域で暮らしたいという方が増 えています。コミュニティホーム白石は、2012年度から介護老 人保健施設の本来的な機能の一つである在宅復帰支援の 強化に取り組んでいます。

同施設では、入所時に利用者さんやご家族の意思をヒアリ ングし、在宅復帰に向けた暫定的なプランを作成。入所後か ら3カ月間、短期集中リハビリテーションを行い、ADL(日常生 活動作)の改善などを図ります。その間、1カ月ごとにカンファ レンスを開催し、在宅復帰への計画的なサポートを行います。

また、支援相談員・リハビリ職・看護職・介護職など、多職種 による「在宅復帰検討会議」を月に1回開催。利用者さんの 情報を共有し、その方にとって最適な支援方法やご自宅に戻



リハビリ職や支援相談員がご自宅を訪問して、生活環境などの確認を行います

っていただく時期などを話し合います。 斉藤久子施設ケア部長は、「入所か らご自宅に戻られるまでの流れを示し た『在宅復帰パス』を作成したことで 目標が明確になり、より具体的な計画 が可能になりました。利用者さんが意

欲的になれるような取り組みを重視し、ご自宅での生活シーン を想定したサポートを行っています」と説明します。

社会福祉法人渓仁会

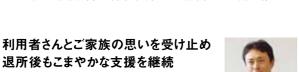
コミュニティホーム白石 施設ケア部 部長

斉藤 久子

在宅復帰には、ご家族の協力も大切な要素です。ご家族の 負担や不安を少しでも軽減するため、ご自宅での生活状況の 確認やアドバイス、訪問・通所リハビリの提供やショートステイ の利用など、複合的な支援を行っています。

こうした取り組みから、2008年は4名だった在宅復帰者 が、2015年には53名にまで増えました。「当施設は専門職 が揃っており、薬の見直しや体調管理のアドバイスなど、総合





退所後もこまやかな支援を継続

社会福祉法人淫仁会 コミュニティホーム白石 支援相談課 課長代理 山田 努

当施設では「自宅に戻りたい」という利用者さんの気持ちを何よりも 大切に、在宅復帰に向けたサポートを行っています。入所1カ月後に 行うケアカンファレンスでは、利用者さんとご家族、それぞれの意見を お聞きしながら、具体的なケアプランを提示。安心してご自宅に戻って いただけるような支援方法を考えています。

ご自宅に戻られてからもお付き合いは続きます。状況を継続して把 握し、悩みや困難なことがあれば必要に応じてご自宅を訪問するなど、 迅速に問題解決を図るようにしています。

利用者さんとご家族、双方の気持ちを受け止め、思いを一つにでき るように。お一人おひとりとずっとつながりながら、地域で暮らす高齢 の方々を支え続ける体制を築きたいと考えています。

どう暮らしたいかという希望を尊重し 生活全般を見据えたリハビリを

社会福祉法人渓仁会 コミュニティホーム白石 リハビリテーション部 課長 水野 弘恵



短期集中リハビリテーションでは、生活機能の向上を中心としたプ ログラムを提供しています。入所後、早い段階でリハビリ担当者がご 自宅を訪問し、生活環境を考えたリハビリやケアを計画。3カ月間でで きるだけ効果を上げられるように、毎月カンファレンスを行い、プログラ ムの見直しを行っています。

重視しているのは、ご自宅に戻っていただいたときの生活全般を考 えたリハビリを提供することです。ただ生活するというだけではなく、利 用者さんが何をしたいのか、どう暮らしたいのか、ということを尊重してリ ハビリを組み立てるようにしています。

訪問・通所リハビリや住環境の改善、福祉用具の提案など幅広い サポートで、多くの方々の在宅復帰を支えていきたいと思います。

Challenge

少子高齢化が進む地域で高齢者の健康寿命を延ばす

楽しみながら健康づくり「介護予防サロンりはる」

[社会福祉法人渓仁会]

社会福祉法人渓仁会は「岩内コミュニティの丘 | の2つの 福祉施設(コミュニティホーム岩内・岩内ふれ愛の郷)を拠点 に、岩内町で入居・在宅・保育事業とさまざまなサービスを提供 してきました。

2014年11月には、町内の空き店舗を活用して「介護予 防サロンりはる」を開設。「リハビリをがんばる」から名付けた通 り、要介護認定者に限らず地域住民の方が楽しみながらでき る身体機能維持向上や趣味活動・クラブ活動・野外活動など を開催し、地域の方々とのかかわりを何より大切にしています。

2016年4月からは、共和町で週1回、神恵内村で月1回と、 周辺町村での介護予防事業も始めています。超高齢社会を 正しく把握し、介護予防活動を続けていきたいと思います。



2015年度実績	新規登録 90名 延べ利用者数 2,227名
行 事	あつま〜れ みんなでランチ 7回延べ37名参加 ふまねっと 16回延べ154名参加 春・秋のドライブ旅行 延べ58名参加 ほか
地域貢献事業	軽トラック市地域住民無料開放、岩内町クリーンナップ運動、岩内町観光協会たら丸雪像コンテスト参加 ほか

Next Ster

周辺町村へと活動域を広げ、へき地の抱える介護予防問題に貢献

Challenge

医療、福祉が在宅へとシフトし、ニーズが多様化

生活・環境インフラのプロデュース 「株式会社ハーティワークス]

在宅医療・在宅介護が推進される中、ライフスタイ ルの変化により個人のニーズは多様化し、それを踏ま えてベストな自宅環境の提案が求められています。

株式会社ハーティワークスは、従来型の介護用品 の販売・貸与ではなく、快適な在宅介護環境を総合 的・包括的に提案できるよう、企業コンセプトを変更。 介護環境提供会社として歩み始めました。また、今後



円山病院で行われた

介護ロボットの勉強会

のニーズを見据え、介護ロボッ ト、介護者の労働・作業軽減商 品などの取り扱いも進めていき ます。

福祉用具貸与利用者	7,628名
特定福祉用具件数	···· 91件
住宅改修件数	⋯ 105件
日常生活用具件数	… 78件
重いす製作件数	·· 144件

Next Step 企業コンセプトに沿い、最新鋭の機器の取り扱いの強化へ

Challenge

質の揃ったサービスの提供を行う

ホームヘルパー活動の質向上へ [株式会社ソーシャル]

在宅介護で、介護や家事支援の担い手となるのが ホームヘルパーです。株式会社ソーシャルは、100名 超の介護福祉十またはホームヘルパー2級以上の有 資格者を擁します。介護が必要な方のご自宅に伺い、 ケアプランに沿った訪問介護サービスを行っています。

ホームヘルパーの質向上のため、白石・中央・西 の3事業所でそれぞれ月1回ヘルパー会議・研修を 実施。また、外部講師を招いた講習会も行っていま す。2015年度は「認知症」「接遇/ラフターヨガ」を テーマに2回の講習会を行いました。2016年度は外 部講師講習を多く予定し、これらの研修をサービスの 質向上につなげていきます。



訪問介護利用者………… 3.639名 延べ利用回数 ……34,925回 介護予防訪問介護利用者 … 4.485名

ヘルパーのやる気や質向上につながる研修の実施

認知症の啓発活動などにより、地域で高齢者を支える仕組みづくりを推進

ステークホルダーダイアログ

次世代が考える社会的責任活動

~職員が考える未来の渓仁会グループのCSR活動とは~

渓仁会グループの活動は、各部門で働く職員によって支えられています。

中でも医療施設の管理部門を中心に、さまざまな職場・職務を経験しながら、幅広く活動しているのが「総合職」の方々です。 これからの渓仁会グループを担っていく総合職メンバーに、渓仁会グループの組織風土やCSR活動への思い、 取り組むべき課題や組織の未来像などを語り合ってもらいました。

1

総合職とは

医療法人渓仁会で2000年度から設けている職種で、2016年現在16名(役職者9名・一般職7名)の総合職が在籍しています。職場を限定せず法人本部や各医療施設をまたいで異動し、主に管理部門のさまざまな職務を経験することで多角的な視点を持ち合わせた『人財』を育成することをめざしています。





長谷川 淳一 (2000年度入職) 手稲家庭医療クリニック 経営管理課 課長代理



佐藤 洋介 (2001年度入職) 札幌西円山病院 企画課 課長代理



永谷 翔 (2004年度入職) 法人本部 経営企画部 主任



森 康一 (2004年度入職) 渓仁会円山クリニック 業務管理課 主任補佐



稲村 和彦 (2005年度入職) 定山渓病院 総務課 主任



野田和也 (2008年度入職) 手稲渓仁会病院 企画情報課 主任代理

人を育てながらサービスの質を追求する 渓仁会グループの組織風土

佐藤 渓仁会グループで働いてきて感じるのは、熱意をもって働く人には、きちんと向き合ってくれる組織だということです。例えば、札幌西円山病院では企画課で課題を提案すると、医師も含めてみんなが真剣に考えてくれます。「どうやったら実現できるか」からスタートしてくれる組織風土が好きですね。

永谷 私は他の会社や組織で働いたことがないから、それが当たり前だと思ってしまうけれど、そういう環境はなかなかないみたいですね。

稲村 各職種における勉強会や研修など、とことんやりますよね。そしてそれを継続している。私がすごいと思うのは、そういう「質を追求する」という姿勢です。もちろん、医療は人的サービスが中心なので、他の病院でもそういう考え方はあると思いますが、渓仁会グループは組織の隅々まで浸透していると感じます。

野田 そういう意味では、「渓仁会グループ=人の力」だと思いますね。みんなコミュニケーション能力が高いし、院長をはじめ経営層の人たちも考えを熱心に話してくれるので、意思の疎通が図りやすい。ここ数年は外部の方とプロジェクトでかかわることが多いのですが、皆さんそこを評価されています。

長谷川 16年間働いてきましたが、その間に組織がとても大きくなったと感じています。CSR活動などによってグ





ループとしての体制が整ったことで、組織全体が成長した のだと思います。また、職員を含めたステークホルダーとの 関係性を大切にするという点も当グループの特長だと思 いますね。

永谷 ステークホルダーとの関係性で言えば、さまざまな情報をわかりやすいかたちで発信しているところですね。自分たちの活動をなんとか可視化して伝えよう、という熱意がすごい。いろいろな広報物を作っていますが、情報を広く公開しようという姿勢が組織に根付いていると感じます。

森 渓仁会円山クリニックでは地域での清掃活動を行っているのですが、当グループの病院や施設は、地域の方々とのかかわりをとても大切にしています。今は医療の国際化などが注目されていますが、**当グループの軸足は地域密着型**なのだと思いますし、そこが強みになっているのだと思います。

稲村 渓仁会グループとしてのイメージづくり、ブランドづくりということを大事にしていますよね。ドクターヘリの運航やCSR活動など、他の病院の先駆けとなるような取り組みも多い。事業理念にもある「変革の精神」の表れだと思います。

長谷川 先ほど「渓仁会グループ=人の力」という話がありましたが、人を育てることにも熱心だと思います。実は12年ほど前に当時のトップだった秋野理事長(現会長)に、研修制度の必要性を訴えたことがありました。その後、今のような年間を通した法人本部主催の研修の仕組みが整えられました。

永谷 職員への投資は惜しみませんし、本人の希望をきちんとくみ上げてくれる。人材を『人財』としている当グループならではだと思います。

社会的責任を果たすという意義 CSR活動が組織にもたらした変化

永谷 私が入職した2004年に当グループのCSR活動がスタートしました。私はCSRを当たり前のこととしてとらえてきたのですが、その前から組織内ではCSRが必要だ、という声は出ていたのですか。

長谷川 私が入職した頃はなかったですね。CSRという言葉自体もなかったと思います。

稲村 世の中にはあったけれど、当グループ内にはまだそういう考えはなかったということですよね。

佐藤 社会で企業や組織の不祥事が問題になり始めて、 組織の在り方が問われるようになったのがその頃だったの ではないでしょうか。CSRという考え方をいち早く取り入れ て、医療や福祉の分野に根付かせたのが当グループだっ たのだと思います。

森 営利を追求しないという面からも、医療や福祉という のはCSRが根付きやすい環境なのだと思います。収益性 や効率性に加えて公益性という観点が必要とされますが、 その柱として当グループではCSRを考えているのだろうと 解釈しています。

野田 でも、CSRが浸透しているかといえば、まだまだではないでしょうか。職員全員がCSRを理解して働いているわけではないと思います。

佐藤 そもそもCSRは浸透させるものじゃないとも言えますよね。医療、保健、福祉にかかわる活動そのものがCSRという定義だとしたら、もうすでに実践している、という見方もできると思います。

野田 私もそう思います。結果からしかCSRの枠に落とし





込むことはできないと思うので。

稲村 そういう枠組みは、CSRを知らないと判断できない ですよね。公益性が保たれているのかを見るという意味で も、CSRの観点は必要だと思います。

永谷 そうですね。CSRやISO26000は、我々の活動が 社会に求められていることから逸脱していないかを振り返 り、確認するためのものと考えられますよね。

森 私はこのCSRレポートも含めてCSRを周知することで、「病院や施設の一職員」という意識から、「地域社会の中にある病院や組織の職員」へと変わってきたのではないかと思います。これからは、地域社会に対して病院や施設は何ができるのか、ということが問われるようになると考えています。

佐藤 CSRに取り組んだことで、病院は治すだけではなく、我々が患者さんやご家族に対して安心感を与えて支えていくことが大切なのだ、という意識に変わってきました。そのためには『人財』を育てて、質を向上させる必要があります。そこを追求できるのが渓仁会グループのCSR活動なのだと思います。

長谷川 内部の職員に「満足感」や「やりがい」がないと、外部に幸せを発信することはできないと思います。私は、CSRは外部とのかかわりにおいてこそ、その必要性を発揮するものだと思っていましたが、最も重要なのは内部への理解ではないかと考えるようになりました。ES(職員満足)なくしてCS(顧客満足)はない、ということ。職員の幸せこそが、サービスの向上につながると思います。

組織間をつなぐ総合職として 渓仁会グループの未来をどう描くか

稲村 私たち総合職の役割とは何か、と考えると、いろいろなとらえ方があると思います。 つなぎ役、通訳、ワイドな視点で未来を見据えた提案をする…。 それらをまとめると、

結果を出しながら組織の成長を図ることができる人という ことになると思います。

野田 総合職としての強みは、発信力や調整力、意識する能力などがあると思いますが、逆に「総合職じゃないとできないことって何だろう」という疑問もわいてきました。

永谷 総合職と一般職の違いが明確に定義されていないので、これからは我々自身がキャリアというものを考えていかなければならないと思いますね。

佐藤 そうですね。総合職と一般職に大きな違いがないだけに、自分たちで仕事の在り方などを考えていくことが重要だろうと感じています。

長谷川 入職した当時は、病院などの運営を担っていく 『人財』になるために、という意味で総合職という言葉が 使われていましたが、これまでの活動を振り返ったときに、 果たしてそこにたどり着けているのかという不安があるのも 正直なところです。

森 当グループで最初に総合職を採用することになったとき、期待されていた役割があったはずです。その期待に応えられているのかどうか自問していますが、その一方で、期待された枠の中だけにとどまっていたらだめだろうな、とも思います。

永谷 総合職のメリットを挙げるとすれば、病院間での異動があるので、顔見知りが増えることですよね。ある病院でいい取り組みをしていれば、それをほかの病院に広げていくことも可能ですし。

稲村 ちょっと逆説的ですが、私が最近考えているのは、 急性期や慢性期といった分野に特化した総合職があって





もいいのかなと。転々と異動して経験を広げることに加え、 ある分野で集中的に経験を積むことによって、もっと総合 職のメリットが発揮されると思います。

野田 私は、自分の将来の役割としては、人財育成部門をつくって、すべての職種に総合職を設けたいと考えています。若い人たちに希望や夢を持ってもらえるような育成システムにするのが目標です。

長谷川 人を育てるという観点で言えば、これからは自分が人を育てていく立場になります。「変革」というと極端かもしれませんが、組織に新しいことを提案していけるような 『人財』になりたいと思っています。

永谷 自分の組織の視点だけでなく、渓仁会グループとしてCSRをどう考えていくのかということを、病院や施設の垣根を越えて、率直な意見交換ができるようになりたいですね。総合職の人たちが橋渡し役になれば、実現できると思っています。

佐藤 そうですね。総合職が増えていけば、専門職を結び つけることができる人が増えるということ。コーポレートスローガンの「ずーっと。」の完全形に近づくのではないでしょうか。「切れ目のないサービス」が実現できると考えると、とても楽しみです。

森 私は同じグループ内の社会福祉法人で働いても、おもしろい活動ができるのでは、と思っています。そこで医療と介護を一体化させたような新しい事業のかたちを提案できれば、当グループが全国区のブランドへと成長する一助になるのではないかと考えています。

※本ダイアログは2016年7月8日に医療法人渓仁会法人本部にて開催しました



地域の高齢者の健康づくりを支援する新たな福祉事業モデルを検証

地域の高齢者の健康を支え、活性化を図るサービスの創出へ [社会福祉法人渓仁会]

経済産業省では、地域におけるヘルスケアビジネスの創出 を積極的に進めています。北海道では2015年に社会福祉 法人渓仁会が実証事業として、「北海道過疎地における複 数自治体・民間連携による健康・生活支援モデル実証 | に取

同事業は高齢化率が高いとされる喜茂別町・ニセコ町・積 丹町・島牧村の4町村と札幌市において実施。4町村の各自 治体と連携して、高齢者の健康づくりを支援するためのプログ ラムの実施と検証を行うと同時に、札幌市では渓仁会円山ク リニックの会員を対象に、元気な高齢者の生きがいづくりに 向けたニーズ調査などを行いました。

4町村との事業では連携の核となる 「4町村連携協議会」を設立。町村ご とに住民モニターを募り、健康相談員 による訪問面接や健康情報の収集、 skype通信による遠隔運動教室やテ レビ電話による定期面談など、過疎 地域における住民の健康をサポートす

る多彩なプログラムを提供しました。また、実証事業後は参加 者の健康意識や身体データなどの調査も実施し、効果の検 証も行いました。

同事業によって健康意識の向上や生活習慣病リスクの改 善が見られたことで、2016年度もプログラムが継続されること になりました。さらに、喜茂別町ではより詳細なサービスも採用 されています。

高齢者の健康増進を図り、医療費の抑制にもつながること をめざして、今後も地域における新たな福祉事業サービスの 確立に取り組んでいきます。





健康運動指導士による出張運動教室

スカイブ Skype通信を使った遠隔運動教室

Next Step

自治体と連携し、課題の解消と持続可能なビジネスモデルの確立を図る

理事長メッセージ



社会福祉法人渓仁会 谷内 好

福祉に携わる者として同じ思いを共有し 地域のあらゆる人たちを支えていくために

社会福祉法人渓仁会は高齢者福祉を中心に、地域 の福祉事業を担っています。近年、高齢者の急増によ る社会保障費の増大が課題となっており、特に高齢化 率の高い北海道の過疎地域では、早急な対策が求め られています。当法人では、こうした社会ニーズにどう対 応していくべきか検討を続けてきました。

昨年度、当法人は「地域ヘルスケアビジネス創出に 向けた実証事業」の採択を受け、後志管内4町村との 連携のもと、健康サービス事業のモデル実証に取り組 みました。1年弱の実施期間でしたが、具体的な取り組 みを行ったことで、自治体の期待に応える結果となりまし た。現在、介護保険制度は、軽度な要支援・要介護者 に対する総合支援事業制度への移行期にあります。今 後は実証事業での成果をもとに地域住民の方々が住

み慣れた地域で暮らし続けるための複合的なサービス を提供していきたいと考えています。

公益的な事業に取り組む法人として社会を支え続け るには、組織基盤の確立と『人財』の育成が重要です。 当法人では2017年度までの中期経営計画の中で、 組織づくり、人づくりを目標に掲げています。ぜひ職員の みなさんには、地域で暮らすさまざまな人たちに思いをは せ、その人たちを支えるために『福祉人』として何ができ るのかを考えられるようになってほしいと思います。

福祉の仕事に携わることが、職員にとっても、またそ の家族にとっても誇りとなるように。組織全体で同じビ ジョンを共有しながら、地域福祉の向上に寄与していき たいと考えています。

認知症への理解や関心を高め、認知症の方を地域で支えるための仕組みづくりが必要に

Action

認知症の方が、安心して地域で暮らしていくために

[手稲家庭医療クリニック]

社会の高齢化が進行するなか、認知症への社会的な関心が高まっています。手稲家庭医療クリニックは認知症に対する啓発・教育活動や認知症を含む在宅医療を支援するための地域ネットワークづくりなどに、精力的に取り組んできました。

2015年度は地域講話や市民フォーラムでの講演会、認知症サポーター養成講座、医療・介護に携わる人たちを対象にした研修会などを実施。認知症への関心や理解を深めてもらう活動を行いました。

また、同年には全国で介護保険制度改正の地域支援事業に位置づけられた「認知症初期集中支援チーム」事業が稼働。札幌市では手稲区など3区がモデル地区となり、10月より事業がスタートしました。同事業は、認知症の方ができる限り住み慣れた地域で暮らし続けられるように、認知症の方やそのご家族に対して専門の支援チームが早期にかかわり、6カ月間を目安に包括的なサポートを行うというもの。メンバーは区の保健師と地域包括支援センターのソーシャルワーカー、認知症サポート医の3名体制からなり、手稲区では同クリニックの小嶋一院長がメンバーとして活動に携わっています。

同クリニックは、外来・在宅・病棟の複合的な診療体制やニーズに迅速に応えるチーム体制、外部の医師へのサポートや関係機関との連携など、これまで培ってきたノウハウを活かし事業を支えています。同事業は今後も継続され、地域における認知症支援のモデルづくりに取り組んでいく予定です。



Next Step

認知症支援のモデルをつくり、地域に定着させる取り組みを継続

院長メッセージ



手稲家庭医療クリニック 院長 小嶋 —

地域に根ざした家庭医療の拠点として 切れ目のないケアに向けた取り組みを

当クリニックは地域のかかりつけ医として、あらゆる年代、あらゆる疾患の患者さんにプライマリ・ケアを提供しています。近年は、病気になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいという方が増えていることから、訪問看護ステーションや訪問診療部門によるサポートを強化しています。また、認知症の啓発活動や地域で暮らす認知症の方を支える活動も重要な取り組みの一つです。

在宅医療と同時に重視しているのが看取りへの対応です。当クリニックでは不安や負担を取り除くために、こまやかなサポートを実施。2015年度はご自宅での看取りが35件になり、潜在的なニーズの多さを実感しました。今後もご本人やご家族の思いをくみながら、看取りへの取り組みを続けていきます。

当クリニックが信頼される根拠の一つが、本院である 手稲渓仁会病院との連携です。これまでも患者さんの 紹介は行ってきましたが、これからはさらに一歩踏み込ん で、同病院の急性期病棟で医療活動ができるチームを つくり、患者さんを継続的にサポートしていくことを考えて います。新たな活動で、当クリニックがめざす「切れ目の ない医療からケア」をさらに推進する予定です。

地域で医療を担う若い医師の育成も、当クリニックの 重要な役割です。これからはそうした情報も地域に向け て積極的に発信し、応援していただけるようにするのも 目標の一つ。地域から信頼され、愛されるクリニックであ り続けたいと考えています。 Challenge

小児の在宅医療を全道に普及させるためのネットワークづくりに取り組む

Action

小児在宅医療の普及をめざし、人と情報をつなぐ

[医療法人稲生会]

医療の進歩に伴い、多くの命が救われるようになった一方で、重い病気や障がいを抱え、高度な医療的ケアを必要とするお子さんが増えています。医療法人稲生会はそうしたお子さんが、家族とともにご自宅で暮らしていけるように、訪問診療や訪問看護・介護などによるサポートを行っています。

同法人は札幌圏を中心に、小児在宅医療のネットワークづくりや支援体制の整備などに取り組んできました。そのノウハウを全道的にも広げようという目的から、「北海道小児等在宅医療連携拠点事業(愛称:YeLL[いえーる])」が2015年10月にスタート。これまでも同法人は全道各地で支援を行ってき



ましたが、公的な事業として位置づけられたことで、より幅広く 展開できるようになりました。

同事業では、各地の医療や福祉、教育などの社会的資源の情報収集や患者さんのニーズの把握を目標に、行政機関や小児医療の基幹病院などと連携。関係機関による「小児在宅医療協議会」を年に1回開催し、情報共有を図りながら地域の課題の抽出や対策の検討などを行います。また、各地域の医療機関での技術サポートや勉強会・講習会の実施、関係機関とのネットワークづくりなどにも取り組んでいます。

2016年度は小児在宅医療への理解や関心を深めるための啓発活動にも力を入れる予定です。ご自宅での生活を望まれる患者さんやご家族の思いに応えるために、各地の方々と手を取り合いながら活動を続けていきます。

2015年度実績

…札幌市142名/月、その他23名/月

延べ患者数318名/月	訪問看護368件/月
坊問診療延べ患者数 250名/月	訪問介護189件/月
也域別患者数	医療型短期入所122件/月

Next Step

小児在宅医療の啓発活動にも力を注ぎ、誰もが地域で暮らしていける社会をめざす

院長メッセージ



医療法人稲生会 理事長 土畠 智幸

次世代のリーダーたちを育てながら小児在宅医療の支援の仕組みを確立したい

当法人は、訪問診療や訪問看護、居宅介護、短期 入所の複合的なサービスを提供することによって、日常 的に高度な医療を必要とする在宅の患者さんやそのご 家族をサポートしています。特に小さなお子さんの場合、 在宅医療の支援体制がまだ整備されておらず、ご自宅 に戻る際の支障となっています。小児医療の専門的な ケアを在宅で継続的に提供し、安心して暮らしていただ くことを目標にしています。

大切なのはその際、病院で受ける医療サービスと変わらないようなケアを提供することです。訪問診療を行う「生涯医療クリニックさっぽろ」では、歯科医師を含む医師6名のほか、看護師、各リハビリテーションスタッフ、歯科衛生士、管理栄養士、アロマセラピスト、社会福祉

士など、多職種が連携して在宅ケアに臨んでいます。また、キャリアアップを図る研修や研究も重視し、「渓仁会グループ研究発表会」などへの参加も積極的に勧めています。

昨年度スタートした中期経営計画では、次世代を担 うリーダーの育成をビジョンの一つにしています。私はス タッフをバックアップしながら、一人ひとりが自発的に考 え、行動できる組織に育てたいと思っています。

私が小児を中心とする在宅医療に取り組んでから 10年がたち、社会の関心の高まりや意識の変化を感じ ています。まずは道内各地の小児の在宅医療を後方支 援する体制を確立し、将来的な制度化をめざして働きか けていきたいと考えています。

地域の方が健康意識を高める機会や、同し悩みを持つ仲間をつくることができる場が必要

高齢者の医療や認知症について学び語れる機会を

[札幌西円山病院]

札幌西円山病院では、長年の高齢者医療のノウハウや、 専門職スタッフの知識を地域の方に役立てることを目的に、さ まざまな地域活動を行っています。

2015年4月からは「地域で暮らす高齢者のための医療公 開講座 | を毎月1回開催しています。毎回一つのテーマを複 数の専門職スタッフが講師となって、座学に実技・実践を加え てわかりやすく解説。また、相談コーナーで健康や食事・運動 などについての質問を個別に受け付けています。

高齢者に特に関心の高い認知症については、患者さんや そのご家族がカフェで気軽にくつろぐような感覚で交流しなが らさまざまな情報を得られる「スマイルカフェ」を開催していま す。医師や専門職によるミニ講座を行い認知症の理解を深 め、家族からの相談を受けたり、介護教室、利用できる公的制 度の情報などを発信しています。こちらは2015年7月に、第1

号の札幌市認知症カフェとして認証を受け、認知症の方やご 家族が地域の方々と気軽に楽しめる場を提供しています。

また、認知症サポーターキャラバンの活動にも参加。これま で9名のキャラバンメイトを輩出し、認知症の方やそのご家族 を地域で支援する認知症サポーターを養成しています。さまざ まな場面で啓発活動に取り組むほか、認知症の地域ケアネッ トワークを築くリーダー役を担っています。



2015年8月22日開催の 医療公開講座 「転倒予 防とリハビリテーション

Next Step

地域に情報を発信して介護予防・認知症予防を進めていく

Challenge

施設の利用者さん以外にも、施設の取り組みを知っていただく

Next Step

利用者さんと地域を結ぶコミュニティホーム美唄の取り組み [社会福祉法人渓仁会]

コミュニティホーム美唄は、美唄市とその近郊の方の在宅 復帰とその後の生活を支援する入所・通所サービスを提供し ています。施設の利用者さん以外にも、ご家族をはじめ、さまざ まな方に介護のことや施設について知っていただき、親しみ や信頼感を持たれる施設づくりをめざしています。

その取り組みの一環として、2016年3月27日、利用者さん の家族を対象とした「家族介護教室」を開催しました。9名の 参加があり、管理栄養士が講師となって「栄養の基本と栄養 補助食品の摂り方」をテーマに約1時間の講義を行いました。

かむ力が衰えた方も楽に食べられる「摂食回復支援食」の 紹介では、実際に参加者に試食していただきました。参加した ご家族からは「自分たちにもいずれ訪れることで、直に話を聞く と印象が強い、また参加したい」「咀嚼・嚥下能力に合った食 事をもっと詳しく知りたい」といった感想が寄せられました。

施設の利用者さんと地域のコミュニティをつなぐ取り組み も行っています。2015年6月には、通所リハビリテーションの 利用者さんが手縫いした雑巾を、美唄市内の3つの小学校に 100枚ずつ寄贈しました。利用者さんには生きがいの一つとな り、また地域の方々には施設を知っていただく機会となりまし た。入所の方で、ご家族の送迎が困難な場合に、月1回を目 安に外出送迎支援をし、気軽にご自宅に一時帰宅できるサー ビスも行っています。今後もさまざまな活動を続けていきたいと 思っています。

小学校へ雑巾を寄贈する通

所リハビリ利用者の皆さん

Challenge

人口の少ない地方部で、介護・福祉の仕事の担い手の確保が必要

Action

交流を通して、福祉に携わる未来の『人財』を育成

[社会福祉法人渓仁会]

介護人材の不足が懸念される中、社会福祉法人淫仁会と その各施設では、地域住民を対象として、さまざまな形での人 材育成活動をしています。

るすつ銀河の杜では、留寿都高校とさまざまな形で交流を 行っています。開設より1年生の見学を受け入れ、利用者さん との交流を通して介護施設に触れる機会をつくっています。 農業福祉コース4年生には、喀痰吸引や経管栄養の安全な 実施、呼吸の仕組みなどについて、介護福祉士養成にかかわ る医療的ケアの講義と演習を行っています。それ以外にも、 留寿都高校の生徒さんには、地域貢献活動として毎年銀河 の杜に花壇を作っていただいています。

西円山敬樹園では、近隣の中学校からの職場体験の受け 入れを行っています。毎年3校から参加があり、フロアでの活 動・行事の補助や、生徒が主体となり発表する出し物で利用 者さんとふれあい、福祉の仕事を体験しています。

北海道が進める「介護のしごと魅力アップ推進事業」の一

環として、2015年11月14日には「介護を知ろうinしりべし」を 実施しました。コミュニティホーム岩内・きもべつ喜らめきの郷 での高校生による就業体験と、岩内地方文化センターでの 福祉と介護をテーマにした地域公開セミナーを開催。セミナー では講演のほか、会場で介護や福祉の仕事をめざす若者の ための就職相談、渓仁会の専門職による介護・栄養相談、 株式会社ハーティワークスによる福祉・介護用具の実演・展

示が行われ、約300名の来場 者に福祉やその仕事について 伝えることができました。



留寿都高校の生徒による 花壇づくりの様子

留寿都高校農業福祉コースの

Next Step

参加者の反応を参考に、より興味を持たれる内容を追求

Challenge

利用者さん以外にも、介護施設と地域住民がかかわる機会が必要

「なるほど身になる福祉講座」で施設をもっと身近に

「社会福祉法人渓仁会」

西円山敬樹園では、2014年度から地元町内会との共催で 「なるほど身になる福祉講座」を行っています。これは施設の 見学や講座などの実施により、高齢者福祉や介護予防など について理解していただく取り組みです。

2015年11月5日に第2回の「なるほど身になる福祉講座」 が行われました。施設見学では敬樹園のほかに、隣接する札 幌西円山病院の改装された病棟やリハビリ施設などを案内 し、喫茶室・コンビニエンスストアなど地域の方々も利用できる 施設があることを伝えました。講座では介護予防をテーマに、 認知症、介護保険制度の豆知識などについてお話ししました。

さらにその後、近隣の宮の森フランセス教会のレストラン「フ ランセス・キッチン」へと会場を移し、アンチェイジングに効果の

ある食材を解説しなが ら、それを使ったメニュー を味わうランチセミナー という初めての試みを 行いました。盛りだくさん の3時間で、参加された 40名の方々からは「近



西円山敬樹園施設内を見学

所に住んでいながらも眺めるだけだった施設を見学できてよ かった」「役立つ情報ばかりだったので、もっと聞きたい」といっ た満足の声や次回のご要望をいただきました。

今後も介護施設に蓄積された情報・知識・技術を地域の方 々に還元し、地域の福祉向上に役立てればと思います。

Next Step

地域の方々の関心の高い内容を吟味しながら活動を継続

広く市民向けにも対象を広げた講座などを行い、地域貢献を進める

32 | 渓仁会グループCSRレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 33



性別や障がいなどに関係なく、多様な人たちが活躍できる体制づくりへ

Action

誰もが多様な個性や能力を活かし、 生き生きと働くことができる組織をめざして

[渓仁会グループ]

渓仁会グループは、医療、保健、福祉にかかわるサービスを 行う法人として、ダイバーシティの推進に取り組んでいます。こ れまで、幅広い人材の採用やワーク・ライフ・バランスを重視し た働きやすい職場環境づくりなどに努めてきました。

手稲渓仁会病院の看護部では、女性看護職員が結婚や 出産を経てもキャリアを継続できるサポート体制を整えていま す。出産から職場復帰までをスムーズに進める仕組みや子育 て中の人に配慮した勤務時間の設定、院内保育所の拡充な ど、生活スタイルに合わせて働くことができる取り組みを実施。 また、本人の希望に沿ったキャリア支援なども継続的に行い、 やりがいを持って仕事に臨めるように応援しています。

さまざまな人の多様な働き方を尊重することで、より豊かなサービスの創出や組織の成長につながるように。渓仁会グループはこれからも多様な人材が活躍できる組織づくりに取り組み、ダイバーシティを推進していきます。

Next Step

さまざまな人が多様な働き方のできる体制づくりを進める、組織としての成長をめざす



手稲渓仁会病院 看護部 看護師 三浦 典子

職員の志望を尊重する支援体制があり、キャリア継続・ステップアップを図れます

2011年に長男を、2014年に長女を出産し、いずれも産前・産後休暇と育児休暇を取得しました。育児休暇は最長で1年間取ることができるので、子どもの成長状態のタイミングを見計らって職場復帰をすることができました。

当病院の看護部では出産してから1カ月の時点で、育児休暇について上司と面談し、復職に向けた方針を決めます。さらに半年後、もう一度面談を行い、職場に戻る時期などを話し合います。復職までのプロセスが明確になっており、要望などを伝えることもできるため、休みの間は安心して育児に専念することができました。

また、勤務時間の長さや時間帯なども、希望に合わせて選択できるようになっています。他にも院内保育所の利用など、きめ細かなサポート体制があるため、キャリアを中断することなく、仕事と子育てを両立できるのが魅力だと思います。上司や同僚の理解と協力もあり、最近は出産後に復職をする人





院内保育所に2人のお子さんを預けられることも、働きやすさにつ ながっています

が増えています。

看護師のキャリア教育に力を入れていることも、看護部の特長です。研修会などに参加する機会も多く、関心のある分野を重点的に学ぶことができます。私は新人のときからがんの患者さんに接してきた経験から、がん看護を深く学びたいと考えています。そうした志望から、長男を出産して復職したときは放射線治療科に配属してもらい、がん患者さんのケアに携わることができました。

やる気や希望があれば耳を傾け、職場全体で応援してくれるのが当病院の特長。職員一人ひとりの人生やキャリアを尊重してくれる風土があるから、意欲的に働き続けられるのだと思います。

患者さんの尊厳を守り、抑制のない安全な療養環境を実現

Action

患者さんの身体や行動を抑制しないケアをめざして

[定山渓病院]

患者さんがベッドから転落したり、徘徊して転倒するといった行動を未然に防ぐために、以前は多くの病院で、患者さんの身体を拘束したり、ベッドに柵を設置するなどの対策がとられていました。定山渓病院は1999年7月に「抑制廃止宣言」を行い、患者さんの人としての尊厳を守り、病院内での抑制をすべてなくす取り組みをスタート。同宣言から1年半後には抑制ゼロを実現し、全国的にも先駆的な事例として注目を集めました。

抑制廃止の取り組みを推進してきたのが、看護職 と介護職で構成される「抑制廃止検討委員会」で す。同委員会は毎月1回開催され、症例検討や尊厳

に配慮したケアの学習などを実施。安全性を高め、患者さん が心から安らげる生活を追求しています。

そうした活動から、日常のケアの中にある"言葉による抑制" についても検討されるようになり、2014年度に「禁句言葉 集」を作成。2015年度は実際に活用しながら、各部署におい てケアの見直しを図りました。現在はより活用しやすい内容に



するため、禁句言葉集に基づく実践を推進しています。

同病院は患者さんの尊厳や権利を何よりも大切に考え、温 もりと思いやりのあるケアを実践しています。あらゆる療養生 活の場面から抑制をなくし、患者さんやご家族に満足していた だけるケアをめざして、病院全体で挑戦し続けていきます。

Next Step

日常のケアを常に見直し、患者さんの行動の制限をなくしていく

院長メッセージ



定山渓病院 院長 菅原 啓

伝統と実績を引き継ぎながら 時代のニーズをとらえた新たな挑戦を

ここ数年、医療の世界には大きな変化の波が押し寄せています。入院日数を抑え、在宅医療に移行するという社会の傾向は、慢性期医療を提供してきた当病院にとってターニングポイントであり、新たなニーズやサービスを見いだす機会になりました。今は患者さんをお待ちする時代ではなく、こちらから積極的にアプローチし、選んでいただくことが大切なのだと考えています。

こうした背景から、当病院が力を入れているのが、在宅部門です。特に訪問リハビリテーションの利用者さんは着実に増えており、2016年8月時点で利用者数が75名と、当初の目標を上回っています。通院することができない患者さんの潜在的なニーズが非常に多いことがわかり、さらなる体制の強化が必要となっています。

また、ほかの医療機関との連携もこれまで以上に重視しています。急性期病院や地域のかかりつけ病院などに当病院の理念や医療の質を知っていただく活動に力を入れ、信頼関係を築きながら、切れ目のないケアの提供をめざしていきたいと思います。

私はこの春から当病院の院長として、より強固な経営基盤の確立に取り組んでいます。抑制廃止や終末期医療など、常に患者さんの視点に立った当病院の医療の質は、非常に高いと自負しています。そうした伝統や実績を引き継ぎつつ、今後は新たな魅力やメリットを打ち出すことを目標にしています。社会の変化をとらえ、これからも挑戦を続けていきたいと考えています。

仕事のやりがい・パワーの源

それは一人ひとりが 輝いてこそ

渓仁会グループでは、さまざまな人たちが個性やスキルを発揮して活躍しています。 生き生きと働きながら、 輝きを放つ人たちをご紹介します。



災害に備える意識を高め、地域の皆さんと共に考える。

定山渓病院 看護部 副部長 田中 かおり



災害看護を学ぶことで、新たな気づきがあります。

定山渓病院 看護部 上野 千鶴子

私は定山渓病院に勤務する前は、手稲渓仁会病院などで 急性期医療に携わっていました。救命救急センターの看護師 長を務めていたこともあり、災害時の医療支援や看護の在り 方について考え続けていました。大学で災害看護学の非常 勤講師を務めたことや、災害研修のファシリテーターなどを経 験したことで、「北海道災害看護コミュニケーション(Ezo看)」 とのつながりが生まれ、この春からメンバーに加わりました。

災害というと救急医療をイメージしますが、実際には災害後の生活を立て直すための支援が長く、大きな課題になります。 また、事前に災害や防災についてどれだけ学び備えているかが重要です(私はこれまでの看護経験を活かし、地域での啓発活動にも取り組んでいます)。

災害看護にかかわったことで、同じ目的を持つ人たちとのネットワークも生まれました。今後もEzo看などの活動を通して情報を発信し、地域の皆さんと共に災害への意識を高めていきたいと考えています。

この10年間、日本では災害が相次いで発生しています。 私は自衛官をしている娘が被災地での支援活動にかかわったことがきっかけで、災害看護などを学ぶ外部のワークショップに参加するようになりました。この活動が2014年からEzo看となり、現在は看護職だけでなく多職種がかかわり合いながら、災害に対する啓発や看護力の底上げを図る取り組みを続けています。

Ezo看では、災害時のシミュレーションを通して、具体的な 看護や災害対策を学んでいます。参加するたびに新しい発見 があり、「まだまだ学べることがある」とわくわくします。

定山渓病院ではこれまでも防災対策に取り組んできましたが、ここ数年は特に関心が高まってきました。現在は病院内の防災マニュアルの見直しを行っているところです。慢性期病院という当病院の実情に即した災害看護の視点を取り入れ、より実践的な内容にしたいと考えています。





今年の5月に定山渓病院で行われたEzo看の研修 会の様子。「避難所運営ゲーム(HUG)」の北海道版 「Doはぐ」を使い、避難所設営についてさまざまな事例 から検討しました



定山渓地区の防災訓練では、地元の消防者や施設などと連携しながら災害時の対応についてシミュレーションを行いました

36 | 渓仁会グループCSRレポート2016 | 37



社会福祉法人 渓仁会 コミュニティホーム 白石 施設長 荒井 政義

利用者さんや職員との信頼関係を大切に 医師としての役割も果たしていきたい。

私は今年の4月にコミュニティホーム白石の施設長になる まで、16年間にわたり札幌西円山病院の内科の医師として 高齢者医療に携わってきました。同病院では長期の入院をさ れている患者さんや終末期を迎えられる患者さんも多く、長く じっくり患者さんと向き合う日々を過ごしました。

当施設は介護老人保健施設として、利用者さんにご自宅 に戻っていただくための積極的な支援を行っています。着任 当初は、長期療養の患者さんを診ていた病院時代と、なるべ く早期の在宅復帰を図るという当施設とのスピード感の違い に戸惑うこともありましたが、利用者さんと接する中で、施設で の医療も病院での医療も変わりはなく、医師としてのキャリア



の延長線上にあるものなのだと気づきました。

現在は、利用者さんの健康管理を中心に、必要に応じて 治療や近隣の病院との連携などを行っています。3カ月ほどか けて利用者さんの病歴を整理し、傾向なども把握できてきまし た。また、施設長としての管理業務にも慣れてきました。当施 設の強みは多くの職種がチーム体制できめ細かなケアを提供 していることです。その職員たちが安心して働けるようにサポー トすることも私の重要な役割だと考えています。

当施設には、さまざまな人生を経てこられた方が入所されて います。昔の思い出や、仕事や趣味といった生きがいもそれぞ れお持ちだと思います。私も若い頃は山歩きが趣味で、20年 以上前にいただいた山野草を庭で大切に育ててきました。そう

した自らの経験をもとに、利用者さ んやご家族の視点に立ち、信頼関 係を築いていくこと。それがこれから の私の目標です。



荒井施設長の趣味は山野草 を育て、その姿を写真に収め ること。「春になると一斉に可 憐な花を咲かせてくれる、その 姿に感動します」





社会福祉法人渓仁会 きもべつ喜らめきの郷 施設ケア部 生活支援課 ユニットリーダー

細川 めぐみ

生日 なや本 の災 支 被 え災 と地 なる ^ の 応 援 派

遣

は

東日本大震災の被災地にある福祉 施設を応援するために、現地に派遣 する職員の募集があり、以前から何か 手助けをしたいと考えていた私は強く 心を動かされました。何年も抱いてきた 希望をやっと実現できると思い、上司に 「行ってみたい」と意志を伝えました。

派遣先は福島県双葉郡広野町に ある特別養護老人ホーム「花ぶさ苑」 でした。社会福祉法人渓仁会からは、 介護職が私を含めて2名、看護職1名 の計3名が派遣され、2016年1月初

旬から2月中旬まで、2週間交代で応援業務を行いま

驚いたのは、全国から応援の職員が集まってきてい



ることでした。誰もが「被災地の役に立ちたい」という 思いを持って働いており、私は2週間という期間でした が、できるだけ利用者さんに寄り添い、話をするように しました。「来てくれてありがとう」と言ってくださった現 地の方々の言葉に、人と人とのつながりの温かさを感 じ、生涯忘れることのできない経験となりました。

私が不在の間、仕事をカバーしてくれた同僚にも 深く感謝しています。今回の経験を心に刻み、これま で以上に、一日一日のかかわりを大切にしながら、こ の仕事を続けていきたいと考えています。



渓仁会円山クリニック 保健事業部 運動指導科 主任代理 笠川 祐輔

> 運 動 カ 指 導にも役立ってい で 培った 17 フ

私は小学校3年生のときに、地元の少年サッカー チームに入りました。理由は「カッコいい!」と思った から。運動が得意で、走るのが速かったというのも向 いていたのかもしれません。その後中学、高校とサッ カー部に所属し、全道大会にも出場しました。

将来はスポーツにかかわる仕事がしたいと思い、ス ポーツトレーナーなどを養成する専門学校に進学。 卒業後は渓仁会円山クリニックに入職し、17年間 運動指導に携わってきました。入職当時は、専門的 な運動指導を行う施設はほとんどなく、私は仕事を通 して、地域の方々の健康づくりに貢献する役割や喜





びを知りました。サッカーをしていなければ、きっとこの 仕事とも出合えなかったはず……そう考えると、続け

てきて良かったとつくづく感じます。

現在は友人たちと立ち上げたチー ムでプレーしています。目標はけがをし ないで、長く続けること。サッカーもこ の仕事も、基本的な体力が必要なの は同じです。また、サッカーをすること で身体能力の振り返りにもなります。 スポーツマンとしての視点を活かし、 今後も一人ひとりの方々に合った運 動指導を行っていきたいと思います。

38 | 渓仁会グループCSRレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 39



キャリアに応じた研修制度の導入で職員の成長を支援

体系的な研修制度による『人財』育成

「渓仁会グループ】

渓仁会グループは、体系的な研修を行うことで、職員一人 ひとりが学び続け、成長できる組織であることをめざしていま す。質の高いサービスの提供に欠かすことのできない職員を 『人財』ととらえ、本人の意欲や希望を重視したキャリア支援 を実施し、人間的な成長も図ってほしいと考えています。

法人本部主催研修会は全職員を対象に、キャリアや年齢 に応じた、階層別・職種別の研修を設定しています。当グルー プの病院や施設などから多職種が集い、ともに学ぶことで、組 織横断的な交流の促進や新たな気づきにつながることも研 修のねらいとしています。

研修内容は常に見直しを行い、ニーズに合わせたテーマ を取り入れています。2015年度は新たにビジネス研修として

■2015年度 渓仁会グループ本部主催研修実績

	回 数	参加人数
新人フォローアップ研修会	7回	210名
新任役職者研修会	1回	70.4
新任役職者フォローアップ研修会	1回	70名
若手選抜者研修会	3回	85名
中堅選抜者研修会A(アサーティブ)	1回	
中堅選抜者研修会B(ヤル気のマネージメント)	1回	131名
中堅選抜者研修会C(OJTの質を求める)	10	
中堅役職者研修会A(問題発見·解決力)	1回	
中堅役職者研修会B(プレゼンテーション)	1回	103名
中堅役職者研修会C(ファシリテーション)	1回	
年代別キャリアデザイン研修会 I (20代)	2回	84名
年代別キャリアデザイン研修会Ⅱ(30代)	2回	56名
年代別キャリアデザイン研修会Ⅲ(40代)	1回	16名
看護管理者研修会	2回	129名
職員合同研修会	1回	521名
幹部職員セミナー	1回	309名
目標管理(BSCの基本)研修会	1回	39名
KMS内部監査員養成基礎研修会	1回	37名
KMS内部監査員スキルアップ研修会	1回	23名
合 計	計30回	計1,813名

渓仁会グループ職員合同研修会で講演する



「目標管理(BSC*の基本)研修会」を実施。当グループで は約10年にわたりBSCに取り組んできましたが、これまでの 取り組みを振り返り、より理解を深めるために、研修として導入 しました。

また、2015年9月に開催した「渓仁会グループ職員合同研 修会」では、福島県の仮設診療所で医療活動を行う札幌西 円山病院の峯廻攻守名誉院長が講師を務め、東日本大震 災で被災した地域の医療や住民生活の現状を報告。500人 を超える職員に、復興の重要性を訴えました。

法人本部主催による研修会を始めて10年がたち、学びの 風土が組織全体に定着してきました。また、研修会を通じて多 くの仲間と知り合い、さまざまなテーマについて意見を交わす 中で、モチベーションの向上や情報の共有、人的ネットワー クの広がりといった効果も生まれています。

今後はさらに渓仁会グループとしての一体感を共有できる ようなテーマや研修内容を企画し、組織全体の活性化を図 ることをめざしています。また、課題となっている研修後のモチ ベーションを維持し、職場で学びを実践できるように、フォロー アップ体制を整えることも検討しています。

※BSC(バランススコアカード)…組織のビジョンなどをもとに戦略を可視化するためのツール

モチベーションを維持するためのフォローアップ体制を検討

小樽商科大学との共同事業で医療経営人材育成講座を開発

2015年10月から2016年2月まで、小樽商科大学「地域包括ケアシステムの中核を担う医療経営人材育成 事業」の一環として、医療経営の基礎科目講座(全6回)を開催しました。同事業は経済産業省の「産学連携サー ビス経営人材育成事業」に採択されたもので、小樽商科大学と渓仁会グループが主体となって共同事業体をつく り、医療・介護事業を経営面で支える人材育成に向けて専門的な教育プログラムの開発に取り組んでいます。

2015年度は渓仁会グループの中堅マネジメント層の職員32名が受講しました。今後は、他の医療機関にも幅 広く受講を呼びかけ、同事業を展開していく予定です。



田中理事長による地域医療の講義

業務の質向上に対する職員のモチベーションアップを図る

Action

学びの機運を高める渓仁会グループ研究発表会

「渓仁会グループ

渓仁会グループ研究発表会は、創立10年目の1989年に スタートしました。グループの「学ぶ風土、文化」を背景に発展 し続けてきた企画であり、病院・施設、職種、職域の枠を超え た協働と連携に役立つ情報交換の場となっています。

第27回目となった研究発表会は、2015年11月7日に札幌 市白石区・札幌コンベンションセンターで開催されました。口



演形式106題、ポスター 形式13題、過去最多の 計119演題が発表され ました。これで2011年か ら5年連続で、演題数は 100題を超えたことにな ります。

今回は、医療、保健、

福祉の各職種に加えて、特に事務職からの研究発表が増えました。また、提携病院から4名の発表があったほか、患者さんのご家族からの発表もありました。

演題発表と同時に、2件のグループ事業報告も行われました。札幌西円山病院の横串算敏副院長からは、新病院開設 (P10参照)の経過を報告。また、開設1周年を迎えた「まめやか相談室」について、渓仁会健康保険組合 産業保健支援室の羽岡健史医師から報告があり、相談のみに留まらない支援をめざした活動について紹介しました。

田中繁道理事長からは「発表内容をさらに練り上げ、学会 発表や論文作成にも挑戦を」と激励の言葉がありました。職 員の向上心をサービスの質向上、そして医療、保健、福祉の 各分野の発展、貢献へとつなげていきたいと挨拶されました。

Next Step

精度を上げた研究を外部発表につなげ、職員のキャリアアップへつなげる

Challenge

痰などの吸引をリハビリスタッフが行えるようにするための体制づくりを検討

全リハビリスタッフの認定と継続的なブラッシュアップをめざす

Action

適切に吸引を行うための院内認定制度を創設

[定山渓病院]

チーム医療を推進するため、医療スタッフの役割の拡大が 求められています。そのなかで、リハビリテーションに携わる理学 療法士・作業療法士・言語聴覚士は、必要に応じて患者さんの 痰などを吸引することが業務として認められるようになりました。

定山渓病院の看護部とリハビリテーション部では、以前から リハビリテーションスタッフの吸引の実施に対する検討を重ね てきました。2015年12月に吸引技術の院内認定制度の実 施に向けたワーキングチームを立ち上げ、2016年1月から研 修を開始。看護部のスタッフが講師となって講義や実技演習 を行い、試験を経て、4月に「定山渓病院吸引認定療法士」と して18名が認定されました。

これまではリハビリテーション中に患者さんの痰などの吸引 が必要になった場合、看護部に対応してもらっていましたが、 リハビリテーションスタッフが適切な吸引技術を習得すること で、必要に応じて、迅速に対応できるようになりました。リハビ リテーションの時間を有効に使えるようになり、患者さんやご 家族からも高い評価をいただいています。

今後はすでに認定を受けたスタッフが講師となって年2回の 研修を行い、リハビリテーション部全員の認定取得をめざしてい

ます。また、継続的に技術の向上と見直し を図るブラッシュアップ研修や、ニーズが 増えている訪問リハビリテーションでの対 応の検討なども進めていく予定です。



田 宋 祖

「定山渓病院吸引認 定療法士」の認定証

約3カ月にわたる研修と筆記・実技 試験を受けて認定されます

Challenge

介護職員の知識・技能向上へのモチベーションを高める

Action

職員のキャリアアップをめざす研修・諸制度

[社会福祉法人渓仁会]

質の高い介護サービスを提供するためには、職員が仕事に やりがいを感じ、向上心を持って知識・技術を磨ける環境が必 要です。また、その技能に伴ったポジションや待遇を用意する のも重要なことです。社会福祉法人渓仁会では、職員がそれ ぞれのキャリアを形成するために、さまざまな研修や支援制度 を設けて後押ししています。

キャリア向上のための資格取得の支援として、介護福祉士をはじめとした各種受験対策講座を開催しています。介護福祉士の受験対策講座では、2015年度は筆記と実技の講座を5回ずつ実施。その結果、19名の受講者すべてが合格することができました。

職員の資質を向上させるための研修としては、全職員に認知症サポーター研修の受講を促しています。より質の高いサービス提供をめざした実践的な知識と技術の習得をめざす介護職員実務者研修についても受講を推進。それとともに、中堅





社会福祉法人渓仁会主催の認 知症サポーター研修

管理職講座など必要な研修の追加も検討しています。その他、社会福祉法人主催の各研修会には、医療法人渓仁会からの参加も増加しており、渓仁会グループとしての職員の資質向上につながっています。

また、国のキャリアアップ助成金・キャリア形成促進助成金 を活用した資格取得の支援も行っています。無資格の介護 職員がスキルアップするための介護職員初任者研修や、介 護福祉士国家試験を受験する職員に対し、実務者研修の受 講費用について支援を行っています。

Next Step

資格取得を、サービスの質向上につなげるよう業務改善を進める

Challenge

介護や福祉の問題について、職員の幅広い学びの機会が必要

Action

海外に学び、福祉を考える広い視野を養う

[社会福祉法人渓仁会]

2015年8月23日~28日の6日間、日本国際協力センター (JICE)と中国日本友好協会によるボランティア派遣事業 に、社会福祉法人渓仁会の職員2名が参加しました。これは 日中友好を図る事業として2011年から行われているもので、 日本のボランティアの中国派遣と、中国のボランティアの日 本派遣が1年ごとに交互に行われています。今回は「高齢 者介護」と「青少年活動&教育支援」をテーマに、日中双方 の発表やボランティアの人的交流が行われ、日本からは当グ ループ職員のほか全9名が参加しました。

代表団は北京市のほか、中国南部の貴州省を訪問。老人ホーム見学をはじめ、軽度知的障害者に対する社会復帰プログラムを実施する施設、情報や物品を市民へ提供する場など、中国の福祉やボランティア活動にかかわる施設を見学しま

した。それぞれの訪問先では、自身の活動状況についての紹介や、中国のボランティアとの意見交換が行われました。

参加した菊水こまちの郷の神謙一郎施設長は「少子高齢 化はアジア全域の問題と感じました」と感想を述べています。



現地の施設を視察する代表団

Next St

研修により得たマクロな視点を活かし、よりよいサービスを考える

Next Step

職員とその家族の健康を守り、健やかな職場づくり

PDCAサイクルで職員と家族の健康を維持・向上

[渓仁会健康保険組合]

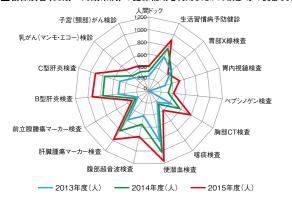
渓仁会グループは2009年10月より「渓仁会健康保険組 合」を設立し、職員とそのご家族の福利厚生の充実を図って います。現在、関連会社を含め、グループ全職員とそのご家族 6,325名が加入しています(2016年7月現在)。

健保組合では、各事業所の定期健康診断の時期に合わ せて、35歳以上75歳未満の職員(被保険者)に人間ドック・ 生活習慣病予防健診、各種がん検診の補助事業を実施して

■年度別 被保険者・被扶養者の推移



■被保険者(35歳~75歳未満)の健保補助を利用したがん検診等の受診実績



データヘルス計画(保健事業)で「お昼の歯みがきキャン ペーン」を企画しました。2013年度の健保組合被保険者の 医療費に対し歯科医療費が占める割合が21.95%で、比較 分析をすると前年度より増減幅の大きい事業所がありました。 そこで生活習慣病やその他の病気の罹患・悪化の原因とな る歯周病予防の啓発を考えました。

対象3事業所の被保険者全員に歯みがきセットを配布し、 60日間昼食後の歯みがきを実施してもらう内容です。実施後の 医療費は前年度比で、平均でう蝕(虫歯)治療費は-11.9%、 歯周病治療費は+76.4%となりました。社会福祉法人全事 業所の医療費と比較して、循環器系・呼吸器系・消化器系疾 患で減となりました。

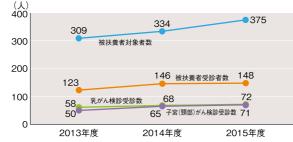
また、40歳以上75歳未満のご家族(被扶養者)にも、生活 習慣病予防のための特定健診や乳がん・子宮(頸部)がん検 診を自己負担なしで実施しています。

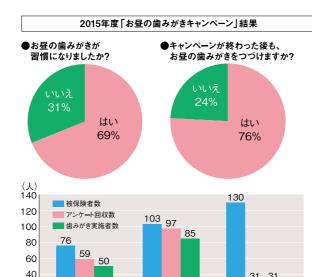
これらの健診データと、医療機関の受診実態をレセプトから 分析し、健康維持に対する問題を整理してPDCAサイクルを 回すことで、健康で元気な職場づくりへとつなげます。

■被保険者(35歳~75歳未満)の健保補助を利用した年度別健診実績



■被扶養者(40歳~75歳未満)の特定健診等の年度別受診事績





コミュニティホーム八雲 コミュニティホーム美唄 コミュニティホーム岩内

健診や受診実態のデータから健康づくりへの施策を打ち出す

理事長メッセージ



淫仁会健康保険組合 (渓仁会グループ会長) 秋野 豊明

「保健医療2035」の提言と渓仁会グループの役割

2015年、超高齢社会の進展によって、わ が国の社会構造が大きく変化する20年後の 「2035年に、健康先進国をめざす」提言を厚 生労働省の有識者懇談会が発表しました(「保 健医療20351)。

わが国は世界一の長寿国であり、国民皆保険 で国民の健康は守られています。しかし、高齢化 が進行して医療費に占める高齢者医療制度の 比重が増し、医療の高度化などによって医療費 はさらに増加し、年金、介護と合わせた社会保障 費は国家財政を圧迫していきます。この危機を 乗り越えるために「健康社会を構築」すると提言

されました。

「健康先進国 | をめざして、2015年から「デー タヘルス計画」がスタートし、「ストレスチェック」 が導入されて、「体と心の健康」を守る取り組み が始まりました。さらに重要なことは、提言に示さ れるように、地域づくりと密接にかかわる保健医 療、つまり、高齢者や障がい者を地域で支えてい く「地域包括ケアシステム |を確立することです。 「地域とともに歩む」保健医療と介護福祉の 先頭に立ち、「健康先進社会」を作り上げていく のが、これからの時代における渓仁会グループ の役割です。

Challenge

職員と家族が抱える医療、保健、福祉、介護などに関する不安を解消

職員・家族のための「医療福祉介護相談室WILL」

[渓仁会グループ]

2015年11月、渓仁会グループ内で働く職員の福利厚生 の一環として「医療福祉介護相談室WILL(ウイル)」を開設 しました。渓仁会グループでは、2014年に産業医や産業カ ウンセラー、臨床心理士による職員・家族向けのこころの相 談窓口「まめやか相談室」を開始。それに加えて、職員とその ご家族の安心を支えるために、家庭での悩みが多い医療、 福祉、介護に関する相談室を設けました。法人が職員向け にこのような相談室を設けることは、全国的にも例がない取 り組みです。

「家族の入院・入所先を探したい」「介護保険の申請の仕 方がわからない」「車いすがほしい」「ケアマネジャーの探し方 を知りたい」など医療、保健、福祉、介護に関する、多岐にわ たる相談を受け付けます。それに対して相談内容を整理し、各 制度の紹介や説明、受診・入院・入所に関するアドバイス、専 門家への誘導などを行います。医療、保健、福祉をシームレス

に行う渓仁会グループのスケールメリットを生かし、必要に応じ てさまざまな分野の相談職との連携・協力のもと、職員やご家 族が抱える問題の解決の糸口を探します。

今後はまめやか相 談室共々、グループ内 での周知を進め、利 用の促進を図るととも に、各方面との連携を 強化し、より信頼され る相談窓口として機 能する体制を整備し ていきます。



全職員が利用しやすく、信頼できる相談体制を築く

44 | 渓仁会グループCSRレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 45

公正な 事業慣行

信頼される 仕事を続けるために。

私たちは、患者さん・利用者さん、職員、取引先、行政、関連団体など、さまざまな地域の 方々とかかわりながら事業を行っています。皆さんから信頼される事業を行うには、法令 を遵守し、公正な取引をし、さらに事業のさまざまな安全性を絶えずチェックすることが 重要です。

医療安全への取り組み(手稲渓仁会病院)

■医療安全職員研修会開催回数



主な医療安全における活動内容

- ●安全管理委員会開催 12回 (委員会での検証事例件数 54件)
- ●SAFETY NEWS発行回数 13回
- ●院内ラウンド回数 53回 ほか

重大な医療事故を防ぐためには、危険が小さな芽のうちに共有し、 さまざまな可能性を考え、対策を立てることが必要です。高度急性 期医療に携わる手稲渓仁会病院では、安全管理委員会によって 常に対策がとられています。

Challenge

個人情報の取り扱いの厳格化や安全管理の徹底をめざす

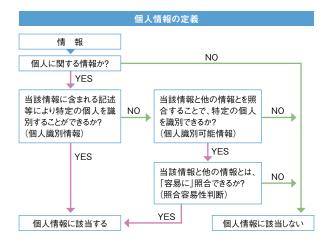
大切な個人情報を守るための取り組み

「渓仁会グループ]

渓仁会グループでは2005年の個人情報保護法の施行 に合わせて、個人情報保護に向けた体制整備を図ってきまし た。体制を整えるための手段としてプライバシーマークの認証 を取得し、規格の要求事項に沿って活動してきましたが、独自 の「渓仁会マネジメントシステム(KMS) | (P53参照)が始動 したことを受け、2012年に同システムに統合。個人情報保 護検討分科会を設置して、医療、保健、福祉の組織に即した 個人情報保護活動を行っています。

個人情報保護に関するルールは「渓仁会グループ個人 情報保護規程」に細かく定められています。これは渓仁会グ ループ共通のマニュアルであり、2015年10月にはマイナン バー制度の運用に対応した改訂版を発行しました。また、こ うしたルールづくりだけでなく、職員への教育・啓発活動も重 視。KMSの内部監査員養成研修で事例検討などを行うほ か、新入職員のオリエンテーションでの説明やグループウェア 上での情報発信などを通して、職員一人ひとりの意識向上を 図っています。

今後は、報告体制のさらなる整備や徹底に取り組み、緊急 時におけるグループ全体としての行動フロー(手順)を確立す ることが目標です。患者さんや利用者さんの情報を守ることの 重要性を認識し、信頼されるための取り組みを続けていきます。



Next Step

各組織の取り組みをレベルアップさせ、グループ全体の意識向上を図る

サイバー攻撃に備え情報の安全を守る

北海道警察が多くの情報を取り扱う法人に対して提案するセキュリティセミナーを、手稲渓仁会病院で2回 実施しました。1回目は6月18日のサイバーテロ対策訓練で、サイバー攻撃を受けた後の通報や被害届提出の 手続きなどを確認。2回目は10月21日に、グループウェアや電子カルテシステムなど院内ネットワーク構築にか かわる協力企業にも参加いただき、攻撃する側・される側双方の視点からサイバー攻撃について学びました。



外部ステークホルダーの声

渓仁会グループが公正で誠実な組織であるための取り組みについて、外部ステークホルダーの方にご意見をうかがいました。

情報の公開・共有体制が組織全体に浸透。 コミュニケーションをより深め、信頼される風土づくりを推進してほしい。

弁護士法人 佐々木総合法律事務所 代表社員 弁護士 佐々木 泉顕 氏

私は医療法人渓仁会の顧問弁護士として、病院で起きる事案への 対応やアドバイスなどを行っています。渓仁会グループの各病院では、医 療安全に向けた取り組みを強化しており、公的な役割を持つ医療機関と してのCSRを果たそうという意識が浸透していると感じています。

例えば、手稲渓仁会病院では、10年ほど前から「メディカル・リスク・マ ネジメント委員会」を設置し、インシデント・アクシデント事例の一元管理 や対応の検討などを行っていますが、わずかな事例でも報告・開示しよう という姿勢が根付いています。医療安全に関する研修なども数多く開催 されており、迅速な報告体制や記録の保持、情報の共有化が徹底され ています。急性期病院という機能とベッド数の多さを考えると、最近の報

告事例は非常に少なく、こうした取り組みが功を奏している証だと考えて います。そのように、積極的に情報開示をすることが、社会からの信頼や 評価にもつながっているのだと思います。

渓仁会グループは、「みんなで現場を良くしていこう」という強い思い を、医師をはじめ多くの職員が持っている組織だと思います。これからは 医療の高度化や組織の拡大に伴い、ますます連携やコミュニケーション が重要になってくると予想されます。病院や施設の垣根を越え、情報共 有や事例検討などができると、さらに医療安全への取り組みが活性化さ れ、グループ全体に根付くのではないでしょうか。今後はそうした活動の 広がりにも期待しています。

7 Challenges 環境 豊かな環境を、未来へ。 地球や地域の環境に配慮した事業活動を行うことは、事業体の大きな責任の 一つです。渓仁会グループでは、環境マネジメントシステムの手法を取り入れ、 医療、保健、福祉の特性を考慮した独自の目標設定、活動の評価を行ってい ます。この取り組みは、環境負荷の低減だけではなく、職員一人ひとりの環境 意識の向上、気づきを実行に移していく積極的な姿勢を生み出すことにつな がりました。 おたるドリームビーチ清掃活動参加者 第10回 「エコびとエコもの表彰」開始 (人数) 300 環境活動レポート誌 「渓仁会エコびとエコもの」発行 100 2009年 2010年 2011年 2012年 2013年 2014年 2015年 グループを挙げた「おたるドリームビーチ清掃活動」(P50参照)を皮切 りに、職員参加型の活動、部署や職員による活動の紹介・共有を行う ことで、さらなる取り組みの活発化を進めています。

Challenge

一人ひとりの環境意識を高めるため、表彰によりアイデアの共有を図る

「第2回渓仁会グループ エコびとエコもの表彰」

渓仁会グループではさまざまな環境保護活動が実践されて いますが、これらの活動を施設間、職員間で知る機会がありま せんでした。そのため、2014年より職員が実践している環境 保護活動を発表し合い、グループの模範となる取り組みを表 彰する機会として「Fun to Eco Project~エコびとエコもの 表彰~」を開始しました。

第2回目の開催となった2015年は、職員のみならず患者さ んやご家族、利用者さんへと活動を広げるもの、外部での環 境保護活動とのつながりをつくるものなど、合計12件のエント リーがあり、下記5つの取り組みが表彰されました。さらに、第 10回目を迎えた「おたるドリームビーチ清掃活動」を、特別賞 として私たち自身が表彰し、表彰状を秋野豊明会長が受け取 るサプライズもありました(P50参照)。

職員一人ひとりの意識が大きなつながりを持った活動へと つなげられるよう、この取り組みを通じて職員への呼びかけを 続けていきます。

Next Step

周辺地域との連携につなげ、さらに広がりを持った環境保護活動へ

受賞した取り組み

第2回グループ最高責任者賞受賞

衣類でRe:ユース社会貢献~衣類寄付活動、環境資源活用~ 西円山Re:ユース7

西円山Re:ユース7は、札幌西円山病院の職員7名のチームです。これまで行ったことのない新しい社会・地域貢献活動 にチャレンジしたいと思い、関西のNPO法人日本衣類救援センターの活動へ協力。不要となった衣類を全職員と患者さん・ ご家族から集め、海外や被災地へと寄贈しました。

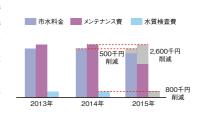


病院正面玄関横に手作りの回収ボックスを設置し、院内・送迎バスへのポスター掲示、院内ネットワークで協力を依頼。その結果、1カ月で964.5kgもの古着を 回収することができました。チーム代表の清野圭司主任補佐は「予想以上の反響があり、受賞は皆さんのご協力のおかげだと思います。現在不要衣類の約7割 が破棄されているそうで、この活動を通じて職員や患者さん・ご家族にリユースを意識していただけたら、さらなる社会貢献につながると思います」とコメントしました。

新棟増築に伴い上水化システムを更新 手稲渓仁会病院 施設サービス課

手稲渓仁会病院新棟(F棟)増築工事に伴い、水道設備を、井水を飲み水 に変える上水化システムへ更新しました。旧システムとの併用の場合と全面

更新との比較を行い、節水で きる後者を採用。昨年度比で 水道料金を50万円、メンテナ ンス費を260万円、水質検査 費を80万円削減し、追加投資 となった分は約1.3年で回収 できる見込みです。



事務用品を必要な部署へ「物品の適材・適所 | 渓仁会円山クリニック KMS推進委員会

月に1回のKMS推進会議で、各部署から余分な物品・使用しなくなった物 品を回収しています。その中でリユースできそうな品はリユース箱に入れ、各部

署の物品発注担当者や職員個人が持 ち出し可能にしています。職員全体の リユース意識を高め、物品の適材・適 所を意識できるように考えています。



エコの合言葉「カ・マ・ボ・コ・ダ運動」 手稲渓仁会病院 地域連携福祉センター

【カ】…カラー封筒の裏面をメモ用紙として活用、【マ】…マイ箸・マイバッグ

熱ボタン!、【ダ】…断捨離して仕事の効 率アップ! の「カ・マ・ボ・コ・ダ」を合言葉 に、気軽に楽しくゴミ削減・省エネ・リサ イクル・残業時間減少に取り組んでい



児童会館統一事業「プルタブ変身大作戦」への協力 南円山シルバー健康教室(札幌市中央区介護予防センター円山)

の徹底、【ボ】…ボトルキャップ・リングプルの回収、【コ】…コピーが済んだら予

児童会館を会場に介護予防教室を行っているた め、利用者さんに札幌市内全児童会館で取り組んで いるプルタブ収集活動への協力を呼びかけました。毎 年車いすが小学校などに寄贈され、目に見える形で 成果が出るため、利用者さんの達成感や満足感が得 られるほか、介護予防教室への継続参加の動機付け ともなっています。



職員の環境意識を高め、継続できる活動を考える

Action

継続して10回目「おたるドリームビーチ清掃活動」

「渓仁会グループ]

渓仁会グループでは、地域貢献となり、かつ職員が体を動かして行う取り組みを通じて環境意識を高めるために、2008年より毎年海開き前のおたるドリームビーチを清掃しています。清掃活動には職員のほか、職員の家族や近隣の学生、取引先などが参加し、参加者数は年々増加しています。

2015年6月13日に実施した第10回目は、過去最多の316名の参加があり、45リットル袋で533袋ものゴミを集めることができました。清掃活動終了後には参加者全員に豚汁とおにぎりが振る舞われ、きれいにした海岸を見ながらみんなで昼食。普段会うことが少ない他施設の職員との談笑を楽しんだ後、すがすがしい気持ちで帰路につきました。

また、継続して第10回目を迎えたこの取り組みは、第2回エコびとエコもの表彰(P49参照)で特別賞として表彰されました。職員を代表し、全10回皆勤の秋野豊明会長が表彰状を受け取り、会場の職員一同からは温かな拍手が送られました。おたるドリームビーチ清掃活動は、今や渓仁会グループの



職員代表として「エコびとエコもの表彰」で表彰状を受け取る秋野会長

恒例行事の一つとなり、広く環境問題について考えるきっか けにもなっています。

Next Step

参加者をより広く募り、ステークホルダーの環境意識を高め、職員と交流できる場をめざす

Challenge

利用者さんも参加できる形で、環境意識を高める活動を行う

Action

森づくりを職員から利用者さん、そして次世代へつなぐ

[社会福祉法人渓仁会]

社会福祉法人渓仁会は、2012年に創立30周年事業の一環として、植樹会を実施しました。以後、環境保護活動として年1回継続し、2014年には第1回エコびとエコもの表彰(P49参照)でグループ最高責任者賞を受賞しています。

この植樹会では、再生ダンボール製の組み立て式植栽用ポット「カミネッコン」で苗木を育て、カミネッコンを地面に置いて根付かせる方法を採用しています。このカミネッコンの組み立てや苗の育成は各施設で行い、利用者さんにもご協力をいただいています。自然環境に興味を持っていただくだけでなく、生きがいを感じ、イベントを通して利用者さんと職員との交流を深める効果も生まれています。法人本部と各施設のほか、他社会福祉法人からの参加もあり、2015年には230本のアカエゾマツの苗を育てました。

そして9月12日に、当別町の道民の森・神居尻地区で第4回植樹会を開催しました。21名の子どもたちを含む87名の職員・家族が参加し、用意したカミネッコンの苗を植えました。また、子どもたちが森林の仕組みや役割を楽しく学べる「森づくり教室」も初めて開催し、森や森づくりの大切さを伝えることができました。

カミネッコンを組れる利用者はん

カミネッコンを組み立て、苗を入れる利用者さん。カミネッコンには利用者さんのメッセージも添えられました

Next Step

医療法人や、他社会福祉法人との連携による活動の継続・拡大

Challenge

冷暖房や給湯など、さまざまなエネルギーが施設には必要

Action

省エネルギーな設備で、施設運営の環境負荷を低減

[社会福祉法人渓仁会]

社会福祉法人渓仁会では、施設の運営にかかるエネルギー の消費を減らすため、さまざまな工夫を行っています。

コミュニティホーム美唄では、豪雪地帯である地域の特徴を活かした冷房システム「雪冷房」を、介護老人保健施設としては国内で初めて導入しました。2月に約300トンの雪を貯雪庫に搬入し、夏期の冷房を雪で冷えた空気や、雪が解けてできる冷水を使って行っています。2012年からは「ドライミスト」を取り入れ、気化熱との相乗効果でよりエネルギー効率の高い冷房を稼働してきました。

2013年に開設したきもべつ喜らめきの郷は、さらなる省エネルギーへの配慮を行った施設です。喜茂別町は、冬はマイナス25℃を下回る極寒冷地で、エネルギー使用量に占める暖房の割合は高く、町全体で環境に配慮した施設づくりを進めています。そこで、再生可能な熱エネルギーである「地中熱」を利用したヒートポンプシステムを採用。また、給湯にも、空気の熱と自然冷媒を利用する業務用エコキュートを導入しています。これら

のシステムは停電後も自動復旧するなど、安定的な運転を行っています。また、建物にも外断熱や複層ガラスを取り入れ、暖めた空気を逃がさないことで空調の効率を向上させています。

2015年7月2日にきもべつ喜らめきの郷の取り組みが評価され、一般財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターから感謝状が贈られました。同法人の林光明専務理事からは「昨今の地球エネルギー問題、環境問題を考えると、非常に有効で魅力的

な方法に取り組んでいただ いた」とコメントをいただきま した。



感謝状を受け取る社会福 法人渓仁会 谷内理事長

きもべつ喜らめきの郷

Next Step

データを分析し、より省エネルギーが可能となる運用方法を実施していく

Challenge

医療機関でも、事業活動における環境への負荷を低減

Action

病院も環境に配慮した施設へ

[医療法人 渓仁会]

医療の現場では、診療活動が高度化するほど、それに伴う エネルギーの消費や廃棄物の発生など、単純に環境面だけ からは評価できない環境負荷が発生します。しかし、事業活動 の中で、それ以外の面で節約できるエネルギーがないかどうか を常に見直し、施設・設備の更新やその運用の改善により省 エネルギーを実現できるものについては、随時取り組みを進め ています。

2015年12月1日に完成した手稲渓仁会病院の新棟・F棟は、療養環境の向上に努めながらも、省エネルギーの工夫が取り入れられています。まず、全館にLED照明を導入。従来型の照明の4分の1に消費電力を削減しています。また、空調のコントロールは病室ごとに行い、患者さんの快適性を上げるとともに、過剰な暖房などの無駄が出にくいシステムとしました。



上水化システム

また、2004年から井戸水を ろ過・滅菌し、飲料水としても

利用できる上水化システムを導入していますが、F棟工事を機に新システムに全面更新を行い(P49参照)、より節水可能なシステムとしました。

それ以外の施設においても、例えば節水の取り組みとして、 定山渓病院は浴槽に定山渓温泉の源泉を100%使用して 水道使用量を削減しています。このように各施設で削減でき るポイントを見直し、設備更新などを実行しています。

Next Step

導入効果と安全性を確認しながら、よりよい設備への更新を進める



組織統治

定山顶病院開設

社会福祉法人南静会 現 (英仁会)超亚 - 医療法人法亡会に改組

- 丰福设仁会病院開設。 HE WILL 一円山ケリー・7個19

> 渓仁会グループの形成 < 医胺·保健·福祉複合事業体>

2001年 - マキジスンナ シストム GMS=HOROO 単入 2004年 - 科野豐和王生 理事長就任 *第二の前面前。CSR核禁

・量・超の超5・単位質にク3ン 第2期中間5と年間間にプロジ

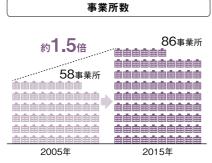
世間の経営革新

一つの意思で、一つの目標へ。

組織が地域にどのような役割を期待され、それをどう果たしていくか。社会的責 任の姿や活動の在り方を、すべての職員が正しく共有することが第一歩です。 渓仁会グループは、地域や時代のニーズに呼応して、事業所やその事業領域 を拡大。それに合う規模の職員を擁して事業活動を行っています。

グループ職員総数 4,607名 約1.4倍 3,191名

2005年



この規模の職員が一つの意思の下で活動するには、精神的な支柱と なる理念体系のほか、さまざまなルールやシステムを統一し、どの部署に おいても質の担保された活動を行えるようにする必要があります。そこ で、独自のマネジメントシステム「KMS」を中心に、組織内で業務の適 正さを確認し合いながらサービスの質の統一と向上を図っています。

優れた取り組みを共有するために

組織が成長していくためには、優れた取り組みを職員間で共有していくことも大切です。各事業所では独自に、部 署の業務や優れたアイデアを共有する取り組みを行っています。

2015年11月11日には、札幌西円山病院で、看護部主催のポスターセッション「看護・介護部署自慢大会」が開 催されました。部署の特徴を活かした専門性の高い看護・介護について各病棟がまとめ、18題が約120名の職員の 前で発表されました。参加職員が各病棟の役割・特徴について理解を深めるきっかけとなりました。

また、2015年7月からは、手稲渓仁会病院でグループ内のシステムを利用し、日頃の業務や取り組みで良かったこ とを自薦・他薦を問わず投稿できる「『Good Job!』良い仕事を広めよう」を開始しています。



看誰,介護部署自慢大会

Challenge

社会情勢や国の施策の変化をとらえた経営計画・成長戦略が必要

「ビジョン渓仁会2020」の策定

渓仁会グループでは、国の医療、保健、福祉政策の方向性 を見据え、2006年度より中期経営ビジョンを策定し、事業の 持続的成長に取り組んでいます。

2015年度は第2期経営ビジョンの最終年であり、その集 大成としての活動を行いました。また、その総括を踏まえて、次 期の中期経営ビジョンとなる「ビジョン渓仁会2020」を策定し ました。

「ビジョン渓仁会2020」は、渓仁会グループの社会的使 命である『「ずーっと。|人と社会を支える』を具現化するため に、2016年度から2020年度までの5年間で実現する「すが た」とその実現に向けた「戦略」を示したものです。「独創性」 「一体感 | 「客観性 | の3つの柱のもと、各事業所が個性を 磨いて革新性を持ったサービスを行い、グループ内連携と地

域との連携のもと「地域包括ケアシステム」のモデルとなり得 るネットワークを構築していきます。そして、客観的なデータを 根拠としたサービス提供・経営を進め、国の施策に柔軟に対 応したCSR経営を推進していきます。

「ビジョン渓仁会2020」は、11月19日開催の幹部職員セミ ナーで発表された後、イントラネットワークや内部広報誌などを 通じてグループ全職員が目標・意識の共有を図りました。また、

「ビジョン渓仁会2020」 と連動した各年度方針・ 目標の設定を行い、その 実現に向けてグループ 一丸となって取り組んで いきます。



2015年11月19日幹部職員セミナーの様子

Next Step

次の5ヶ年を発展期ととらえ、2025年を見据えた事業およびサービスの実現をめざす

Challenge

内部監査によって渓仁会マネジメントシステムの有効な運用を図る

渓仁会マネジメントシステム(KMS)を支える内部監査

[渓仁会グループ]

渓仁会グループでは、品質・環境に関する国際マネジメント規 格や個人情報保護に関するプライバシーマークなどの第三者 評価を、医療、保健、福祉に取り組む組織としていち早く取り入 れて組織活動に役立ててきました。こうした各種マネジメント規 格を、より当グループの活動に即した内容に統合・再編したのが 「渓仁会マネジメントシステム(KMS)」です。KMSは2011年 度から運用が開始され、グループが提供する医療、保健、福祉 サービスの質向上に寄与しています。

質の高いサービスを提供するためには、業務プロセスの適切 性、有効性、効率性を追求し続けることが重要となりますが、渓 仁会グループではこれらの確認を、年1回実施する「内部監査」 を通じて行っています。内部監査は、監査技術を学ぶ「KMS内 部監査員養成基礎研修会」を受講し、内部監査員の資格を取 得した職員が行う取り組みとなっており、現在グループ内では 500名以上の職員が監査員の資格を有しています。また、監査 技術の継続的な向上を目的とした「KMS内部監査員スキル アップ研修会 | の開催、監査を振り返っての自己評価の実施 と研修(教育)内容への反映など、内部監査はKMSにおける 重要な活動の一つとなっています。

内部監査を継続的に実施することは、組織に横のつながり を生み出す効果も期待できます。組織横断的な交流にも活用 できる内部監査となるように、さらなる充実をめざしていきます。



KMS内部監査員養成基礎研修会の様子

Next Step

監査結果の評価とフィードバックを行い、PDCAサイクルによる改善をめざす

数字で読み解く渓仁会グループ

渓仁会グループや、各事業所の事業活動にまつわる、さまざまな数字をご紹介します。

渓仁会グループの数字

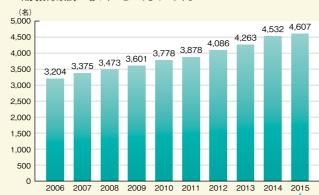
総事業所数と総敷地面積

地域への展開や、医療、保健、福祉のニーズに応える拠点増加が進み、数でも面積でも渓仁会グループは大きく育っています。



●グループ職員総数の推移

道内で地域における医療・介護職の減少が問題になる中、事業所増加に伴い職員数も順調に増やすことができています。



1		
	●手稲渓仁会病院1,669名	●カームヒル西円山19名
	●手稲渓仁会クリニック 97名	●コミュニティホーム白石174名
	●手稲家庭医療クリニック66名	●コミュニティホーム八雲89名
	●札幌西円山病院 ······892名	●コミュニティホーム美唄91名
	●定山渓病院351名	●コミュニティホーム岩内142名
	●渓仁会円山クリニック 128名	●青葉ハーティケアセンター 35名
	●おおしまハーティケアセンター39名	●美唄市東地区生活支援センターすまいる… 28名
	●喜茂別町立クリニック 8名	●訪問看護ステーションあおば 9名
	●泊村立茅沼診療所 ·······9名	●菊水こまちの郷
	●医療法人渓仁会法人本部 ······· 43名	●豊平ハーティケアセンター 25名
	●西円山敬樹園 ······· 134名	●円山ハーティケアセンター 46名
١		



グループ職員数の推移詳細













医療・保健の数字

手稲家庭医療クリニック

■1日あたりの外来患者数·入院患者数

外来診療は、2014年4月から手稲渓仁会病院が完全予約制(一部を除く)となりました。入院は安定した数字で推移を続けています。





治療とケア

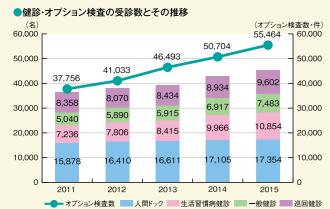
手稲渓仁会病院	治療とケア
●平均在院日数10.6日	●診療関連
●病床稼働率90.8%	年間手術件数
●チーム医療	無易及別于側割告 ················ 高無及(E) 1.0%/ 中無及(C-D)92.3%/ 低難度(A-B)5.9%
クリニカルパス施行数	年間消化器内視鏡検査数 ·······14,332件
クリニカルパス種類	●周産期医療
NST(栄養サポートチーム)介入延べ患者数 ······ 1,678名	年間分娩件数 526件
服薬指導件数	NICU稼働率·····95.2%
9/パピック フョン 天順手 世数 (八郎、介木日日) 210,409	●地域医療連携連携医療機関数 448
教急医療	連携登録医師数 509
救急患者数	患者紹介率/逆紹介率72.3%/56.4%

●訪問診療 (往診含) 延べ患者数 3,070名	●栄養指導実施数 ····································
●看取り患者数 病棟111名/在宅35名	●訪問看護延べ利用者数(はまなす訪問看護ステーション) ······ 11,760名
○ > P ★ ★ ★ 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	



道内52名、道外5名		
定山渓病院		療養とケア
 入院患者平均年齢・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	 リハビリテーション実施単位数(入院) 172,098 訪問リハビリテーション実施単位数 10,055 デイケア延べ利用者数 4,066名 デイケア室リハビリテーション総実施数 4,611 介護予防啓発普及事業(介護予防センター定山渓) 開催回数 106回 延べ参加者数 1,867名 	30歳~40歳未満 2.4% 20歳~30歳未満 7 1.1% 90歳~ 13.8% 50歳~ 4.8% 60歳未満 9.5% 60歳未満 27.0% 70歳~ 80歳未満 23.0%

渓仁会円山クリニック 保健



●オプション検査数内訳・・・・婦人科(乳がん、子宮がん、卵巣がん)16,629件、CT (頭部、胸部、腹部)3,518件、その他(胃カメラ、前立 腺マーカー、骨粗しょう症ほか)35,317件 ●契約団体数······· 保険者約380団体、団体·事業所約2,000件

泊村立茅沼診療所

地域医療

●延べ患者数………8.618名 ●保健予防活動 1,196名 予防接種 …………1,131名 生活習慣病健診1名 特定健診15名 特定健康診査事後(血液検査) 5名 肺がん検診5名 各種ドック検診(脳、腹部、心臓)・・・・12名 ピロリ菌・ペプシノーゲン検査……3名

甲状腺スクリーニング12	名
肝炎ウイルス検査6	名
骨粗しょう症検診11	名
大腸がん検診3	名
前立腺がん検診12	名
エキノコックス検診12	名
風しん抗体検査12	名

喜茂別町立クリニック

地域医療

●延べ患者数……… 10,896名 (外来9,101名、在宅52名、施設1,743名)

●保健予防活動 ········ 1	,882名
予防接種 ······	⋯1,402名
事業所健診	80名
バースデイ健診	97名
学校内科健診	·····134名

学校心臟健診 25名 保育園健診 51名 乳幼児健診 93名
--

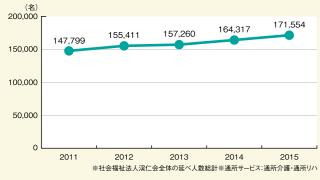
介護・福祉の数字





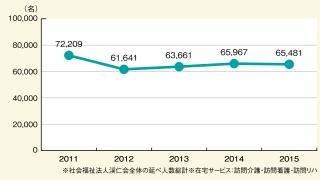
	入 所	短期入所
西円山敬樹園	43,335	3,437
グループホーム西円山の丘	9,608	
手稲つむぎの杜	28,920	2,602
月寒あさがおの郷	28,581	1,384
菊水こまちの郷	10,350	
きもべつ喜らめきの郷	28,506	
るすつ銀河の杜	10,420	
岩内ふれ愛の郷	18,724	2,352
コミュニティホーム岩内	36,340	
コミュニティホーム白石	34,809	5,852
グループホーム白石の郷	6,272	
コミュニティホーム八雲	32,027	
コミュニティホーム美唄	28,917	
カームヒル西円山	35,522	

●通所サービス利用者数



	通所介護	通所リハ	その他
西円山敬樹園	5,767		
手稲つむぎの杜	19,691		
月寒あさがおの郷	8,666		
菊水こまちの郷	40		10,003
るすつ銀河の杜	1,462		
コミュニティホーム岩内	1,060	10,889	
コミュニティホーム白石		10,230	
グループホーム白石の郷	12,123		
コミュニティホーム八雲		8,526	
コミュニティホーム美唄		13,609	
美唄市東地区生活支援センターすまいる	5,673		
青葉ハーティケアセンター	14,937		
豊平ハーティケアセンター	15,361		
円山ハーティケアセンター	17,878		
新琴似ハーティケアセンター	15,639	_	_

●訪問サービス利用者数



	訪問介護	訪問看護	訪問リハ
西円山敬樹園	19,694		
きもべつ喜らめきの郷	953		
コミュニティホーム岩内		3,058	
コミュニティホーム白石	12,547		159
コミュニティホーム八雲	2,011		2,149
美唄市東地区生活支援センターすまいる	20,277		
青葉ハーティケアセンター		4,633	

西円山敬樹園

●平均要介護度 ………… 3.64(入所) (要介護度別入居者構成比は右グラフ参照)

●1日当たり実績

入所 ……… 117.1名/日(定員123名) グループホーム西円山の丘 … 26.3名/日 短期入所生活介護……9.4名/日(定員14名) 通所介護 ……22.3名/日(定員30名) 訪問介護……17.0回/日、 ケアセンターこころ……195回/日

●居宅介護支援…… 延べ1,470件、 ケアプランセンターこころ……延べ1,240件

●介護予防センター延べ相談件数

······ 円山150件、曙·幌西152件

●研修参加·実施状況

外部研修…参加46回

内部研修…開催75回 事故防止・感染予防・抑制廃止/高齢者虐待防止など、 その他各部署にて実施

月寒あさがおの郷

●平均要介護度 ……4.○(入所)

●1日当たり実績

入所 ……78.1名/日(定員80名) 短期入所生活介護 …… 3.8名/日 (定員8名)

通所介護…33.3名/日(定員45名)

●研修参加·実施状況

要介護度1-

要介護度5

23.2%

31.2%

1.8%

外部研修…法人本部・渓仁会グ ループ研修延べ112名参加、その他 研修に延べ26名参加

内部研修…開催13回(外部講師5 回)、延べ202名参加、看取りケア、認 知症サポーター養成講座などを実施

きもべつ喜らめきの郷

●平均要介護度 ……3.4(入所)

●1日当たり実績

入所 …… 77.9名/日(定員80名) 訪問介護 …… 3.7回/日

●研修参加·実施状況

外部研修…60回、延べ140名参加、認 知症介護実践者研修、介護職員実務者 研修、全道老人福祉施設研究大会など 内部研修…開催24回、延べ1.098名 参加(るすつ銀河の杜との合計)、看取り ケア、リスクマネジメントなどの研修を実施

岩内ふれ愛の郷

●平均要介護度 ·······3.4(入所)

●1日当たり実績

入所 …… 51.1名/日(定員50名) 短期入所生活介護 …… 6.4名/日 (定員10名)

●研修参加・実施状況

外部研修・・・・参加10回、産業医による衛 生管理研修会、認知症介護実践研修など 内部研修…・全職員参加の研修を18 回開催。虐待防止研修会、事故発生 防止研修、移動介助技術研修など

コミュニティホーム白石

●平均要介護度 …… 2.7(入所)

●1日当たり実績

入所 … 95.1名/日(定員100名)、 白石の郷17.1名/日(定員18名) 短期入所生活介護 …16.0名/日(定員19名) 通所介護…白石の郷39.1名/日(定員55名) 通所リハビリテーション

-----41.9名/日(定員50名) 訪問介護……35.5回/日 訪問リハビリテーション …0.4回/日

社 会 復 帰・生 活 支 援

●居宅介護支援 …… 延べ2.186件

●地域包括支援センター延べ相談件数 …1.299件 ●介護予防センター延べ相談件数 … 白石中央57件

●研修参加·実施状況

外部研修……北海道作業療法学会 3名、理学療法士学術大会1名、ほ か多数の研修会に参加

内部研修・・・・感染症についての研 修会60名参加、メンタルヘルス研修 会51名参加ほか

コミュニティホーム美唄

●平均要介護度 ……2.7(入所)

●1日当たり実績

入所 …… 78 2名 / 日(定員80名) 通所リハビリテーション

------43.9名/日(定員55名)

社 会 復 帰・生 活 支 援

●研修参加·実施状況

会、道社協主催研修会ほか

内外合わせて40回、延べ100名参

加。淫仁会グループ研修会、老健協 主催研修会、道介護福祉士会研修

手稲つむぎの杜

介護

9.8%

34.0%

介護

介護

介護

●平均要介護度 ………3.95(入所) (要介護度別入居者構成比は右グラフ参照)

●1日当たり実績

入所 ……79.0名/日(定員80名) 短期入所生活介護

-----7.1名/日(定員10名) 通所介護……54.2名/日(定員65名)、 認知症対応型通所介護… 8.8名/日(定員12名)

●居宅介護支援 ……… 延べ1 613件 ●介護予防センター延べ相談件数…… 85件 ● 瞳がい者相談支援事業 ………3.816件

●研修参加·実施状況

外部研修…135回、延べ269名参加、ユニットリーダー研修、地域公益活動研 修、認知症実践者研修、ケアマネジメント能力向上研修など

内部研修…開催25回、延べ481名参加、移乗・移動技術研修、認知症ケ ア研修、摂食嚥下・口腔ケア研修、転倒防止リスクマネジメント 研修などを実施

菊水こまちの郷

●平均要介護度 ····· 4.21(入所) ●研修参加·実施状況

●1日当たり実績 入所 …… 28.3名/日(定員29名)

小規模多機能型居宅介護 ······27.4名/日(登録定員29名) 認知症対応型通所介護

-----0.2名/日(定員3名)

加、認知症介護実践者研修、特養 看護と介護の連携協働研修など 内部研修…・開催13回、延べ267 名参加、接遇、リスクマネジメント、認 知症の理解などの研修を実施

外部研修……44回、延べ55名参

介護

要介護度2 4.9%

要介護度4

37.0%

27.2%

介護

要介護度5

30,9%

るすつ銀河の杜

介護

社 会 復 帰・牛 活 支 援

●平均要介護度 ……3.0(入所) ●研修参加・実施状況 ●1日当たり実績

入所 ……28.5名/日(定員29名) 通所介護 …… 6名/日(定員10名)

外部研修…35回、延べ61名参加、

(内容はきもべつ喜らめきの郷参照) 内部研修…きもべつ喜らめきの郷と 승同

コミュニティホーム岩内

●平均要介護度 …… 2.99(入所)●居宅介護支援 ……… 延べ278件

●1日当たり実績

入所 …… 99.2名/日(定員100名) 通所リハビリテーション …39.8名/日(定員50名) 通所介護 ……6.7名/日

訪問看護……12.5名/日

●地域包括支援センター延べ相談件数…169件 ●研修参加·実施状況

ユニットリーダー研修1名、認知症実

践者研修4名、認知症実践者リー ダー研修1名など計18名参加

社会復帰・生活支援

コミュニティホーム八雲

●平均要介護度 …… 3.2(入所)

●1日当たり実績

入所 … ... 87.5名/日(定員90名) 通所リハビリテーション

------27.5名/日(定員45名) 訪問リハビリテーション・・8.8名/日 訪問介護 5.9回/日

外部研修・・・・68回、延べ106名参

●研修参加·実施状況

加、感染管理研修、認知症介護実 践リーダー研修など

●居宅介護支援 …… 延べ1,039件

内部研修・・・・開催13回 延べ418 名参加、感染症予防対策研修、腰 痛予防研修、認知症サポーター養 成研修など実施

カームヒル西円山

社 会 復 帰・生 活 支 援

●平均要介護度 ········ 1.3(入所) ●研修参加·実施状況 ●1日当たり実績

入所 ……97.0名/日 (うち特定入居者36,3名/日、定員 100名)

25回、延べ119名参加、外部研修は老人

福祉施設協議会、全国軽費老人ホーム 協議会などに参加、内部研修は高齢者虐 待防止研修、感染症対策研修などを実施

56 | 渓仁会グループCSRレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 57

美唄市東地区生活支援センター すまいる 社会復帰・生活支援

●平均要介護度 … 1.8(通所介護)

通所介護 …… 18.5名/日 訪問介護……50.3回/日

●居宅介護支援 …… 延べ1,958件2.098名 ●福祉入浴……

●高齢者世話付き住宅 生活援助員派遣事業 …… 4,203件

の内部研修延べ382名参加、訪問 介護事業所内研修月1回、通所介 護・居宅介護事業所内研修2カ月に 1回

●研修参加·実施状況

集合研修延べ50名参加、職員対象

おおしまハーティケアセンター

●平均要介護度 ···· 2.6(通所介護) ●1日当たり実績

短期入所 …… 9名/日(定員9名) 通所介護 ……24名/日(定員30名) 訪問介護 … ------5回/日 訪問看護 … -----1回/日 ●居宅介護支援…延べ登録者数111件/月

生活支援·通所介護

生活支援·通所介護

●在宅介護支援センターおおしま 延べ相談件数 …… ---- 874件

●地域交流 ミニデイ……7地区173名参加 センター見学会…6地区55名参加 その他講演会、大鳥の福祉を考える

青葉ハーティケアセンター

生活支援·通所介護

●平均要介護度 … 1.7(通所介護) ●研修参加·実施状況

●1日当たり実績

●1日当たり実績

通所介護…46.4名/日(定員65名) 訪問看護…… -----18.8回/日 ●居宅介護支援 …… 延べ1,827件

円山ハーティケアセンター

生活支援·通所介護

渓仁会グループ法人本部主催研修

会6名参加。外部研修は各地区在宅

ケア連絡会、褥瘡・難病・人工透析・

呼吸器疾患などの研修会に参加

●平均要介護度 … 1.16(通所介護)

●1日当たり実績

通所介護 "56.9名/日(定員75名) ●居宅介護支援 ……延べ2,379件

●研修参加·実施状況

介護技術研修、主任ケアマネフォ ローアップ研修、福祉用具研修など の外部研修に参加

豊平ハーティケアセンター

●平均要介護度…… 1.7(通所介護) ●1日当たり実績

通所介護…46.5名/日(定員65名)

●研修参加·実施状況

渓仁会グループ法人本部主催研修 会9名参加。その他内部勉強会を偶

新琴似ハーティケアセンター

生活支援·通所介護

●平均要介護度 …1.4(通所介護) ●1日当たり実績

通所介護…46.3名/日(定員65名)

●研修参加·実施状況

外部研修…各地区通所連絡会、認 知症介護実践者研修ほか 内部研修…開催9回、認知症の対 応、リスク管理、計画書作成など

財務の数字

●2015年度の各法人の収益(単位:百万円)

医療法人 渓仁会

経常収益 34,732

社会福祉法人 渓仁会

経常収益 6,832

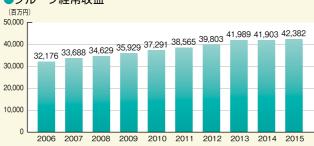
その他関連法人

′株式会社ハーティワークス、 、株式会社ソーシャル、医療法人稲生会 経常収益 8 8

●医療法人渓仁会 経常収益



●グループ経常収益



●社会福祉法人渓仁会 経常収益



環境の数字



※環境負荷のデータはすべて医療法人のみ



「ずーっと。」の意味



渓仁会グループは、地域の医療、保健、福祉を支えることを使命に、皆さまの人生に寄り添い続けてきました。 "「ずーっと。」人と社会を支える"を社会的使命として掲げ、社会のニーズに応えるためのサービスを追求しています。

この「ずーっと。」には、たくさんの思いや決意が込められています。

誕生から人生の終末期まで、皆さまの一生を見守り続けること、切れ目のない医療、保健、福祉サービスを提供すること、 広い地域をつなぎ合わせる医療、保健、福祉のネットワークを築くこと、 信頼される組織の義務として、いつまでも存在し続けること。

こうした使命を果たし、地域の皆さまに安心と満足をお約束することが、当グループの存在意義であると考えています。 住み慣れた地域で、誰もが生き生きと暮らし続けることのできる未来を実現するために。

渓仁会グループはいつまでも、皆さまのそばに寄り添い続けます。

皆さまを生涯にわたって 見守り続ける

「ずーっと。」

医療・保健・福祉を 途切れることなく提供する

地域の医療・保健・福祉を 支えるネットワークの

いつまでも皆さまの近くに 存在し続ける

58 | 渓仁会グループCSRレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 | 59

新たな経営ビジョンのもとで 変化の時代を乗り越える挑戦を

新中期経営ビジョンで めざす姿

渓仁会グループは近年、さまざまな新規 事業や大型プロジェクトを展開しています。 そうした中、今後の組織運営の要となるの が、昨年11月に発表した新中期経営ビジョ ン「ビジョン渓仁会2020」です。2016年度は そのスタートの年であり、5年間にわたる取 り組みが始まったところです。

「ビジョン渓仁会2020」では、渓仁会グループの「あるべき姿」と、その実現に向けた「戦略」を示しています。「独創性」「一体感」「客観性」の3つを柱に、グループ内のそれぞれの事業と機能を戦略的に発展させることをめざしています。それらを実現することで、地域における存在意義の発揮や、地域およびグループ内のシームレスな連携による地域包括ケアシステムの牽引、客観的な根拠に基づくサービスの提供と経営体制の強化に取り組んでいきます。

本年度は「ビジョン渓仁会2020」の実現に向けた挑戦の年と位置づけ、渓仁会グループの各病院・施設・事業所のあるべき姿の策定と事業戦略の明確化、渓仁会グループならではの独創性の追求などを重点項目に掲げました。これまでの概念や組織の枠にとらわれず新たな挑戦を続けることで、医療、保健、福祉の世界にイノベーション(革新)を起こすことを目標にしています。

こうしたビジョンは、『「ずーっと。|人と社

会を支える』という渓仁会グループの社会 的使命を実践するものであると同時に、超 高齢社会となる2025年を見据えた取り組 みでもあります。挑戦とイノベーションによっ て確かな組織体制を築き上げ、渓仁会ブラ ンドを高めていきたいと考えています。

変化の波を乗り越える柔軟な組織体制に

近年は、医療、保健、福祉を取り巻く環境 が激変し、社会保障制度は大きな転換点 を迎えています。私たちはこれまで提供し てきたサービスの質を落とすことなく、時代 のニーズに沿った医療、保健、福祉の在り 方を見直していく必要があります。

北海道でも策定が進められている「地域医療構想」では、2025年に必要とされる 医療圏ごとの高度急性期・急性期・回復期・ 慢性期の各病床の数を推計し、それに合 わせて調整を図っていくことが求められま す。その動きの中で、今後は特に回復期医療の役割が重要になると予想されることから、渓仁会グループでは、回復期医療を担 う「札幌渓仁会リハビリテーション病院」の 2017年度開設に向けて、準備を進めています。

押し寄せる改革の波を乗り越えるには、 どのような変化にも柔軟に対応できる組織 体制が重要になります。いつの時代にあっ ても揺らぐことなく質の高いサービスを提供 するために、渓仁会グループは未来を想定 しながら、新しい挑戦を続けてまいります。

地域包括ケアシステムの 構築に向けて

2025年問題の解決策として国が打ち出しているのが、地域包括ケアシステムです。 医療、保健、福祉のサービスを地域において包括的に提供し、医療や介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるように支えるシステムとして、構築が急がれています。

渓仁会グループは、高度急性期医療から慢性期医療、在宅医療までを網羅した 医療サービスと、高齢者福祉を中心とした 福祉サービスを提供しています。私は、グループ内での垂直連携をこれまで以上に 推進することで、地域包括ケアシステムの モデルを示すことができると考えています。

一方で、この取り組みは渓仁会グループ内だけで完結させるものではありません。地域にある医療機関や福祉施設、行政機関やコミュニティも巻き込みながら、ネットワークづくりを進めることで、地域包括ケアシステムの構築につなげるのが理想です。その中で渓仁会グループの病院や施設が中心的な役割を果たすためにも、それぞれの特徴や強みを打ち出し、存在感を示していく必要があります。

昨年、医療法の一部を改正する法律が

成立し、「地域医療連携推進法人」制度 が創設されました。これは、地域にある複 数の医療法人などが新たな法人を設立 し、複合的な医療・介護サービスを一体的 に提供する制度で、2017年4月の施行を前 に、すでに具体的な動きも始まっています。

渓仁会グループはそうした動向も見据 えながら、まずはこれまで進めてきた地域 の医療機関や福祉施設などとの連携を、さ らに強化していく考えです。顔が見える連 携から一歩進めて、考えがわかる同盟関 係へ。同じ志を持つ仲間とともに手を取り 合い、地域包括ケアシステムの確立に取り 組んでいきたいと思います。

CSR経営による 組織の持続的成長を

渓仁会グループはCSR経営を掲げ、質の高い医療、保健、福祉サービスを提供することで、人と社会を支えるという使命に取り組んできました。その第一線に立って努力しているのが、高い志と卓越した技能を持つ職員たちです。渓仁会グループでは職員一人ひとりを『人財』として尊重し、きめ細かな育成システムによって、スキルアップができるように応援しています。

今後、重視しているのがグループ内における人事交流です。渓仁会グループには 機能の異なる病院や施設があり、多様な学 びができる機会に恵まれています。職員が さまざまな現場で経験を積み、研鑚を深められるような人事システムをつくりたいと考えています。

医療、保健、福祉のサービスは社会の共 通資本とされています。そうした事業に取り 組む渓仁会グループの活動はCSRそのも のであり、質の高いサービスを実現すること は私たちの責務ともいえます。

CSR経営によって組織の持続的な成長を図り、患者さんや利用者さん、そして職員に信頼される組織であることをめざして。 渓仁会グループは未来のビジョンを描きながら、誠実に歩み続けてまいります。

> 渓仁会グループ最高責任者 医療法人渓仁会 理事長





渓仁会グループCSRレポート2016に対する第三者意見



駿河台大学経済経営学部 同大学院総合政策研究科教授 日本経営倫理学会副会長・博士(経営学) 水尾、順→

企業でCSRを実践し、大学と学会でその理論構築をしながら、"CSRの理論と実践の融合"を社会に促進してきた立場から、今年度の報告書に沿って以下に第三者意見を申し述べます。

高く評価できる点

1.特集記事を通して、「人を重視する、人本主義CSR 経営」への取り組みを知ることができます。

渓仁会グループ(以下、同グループ)は、2004年にCSR経営への取り組みを宣言し、医療、保健、福祉分野では日本初のCSRレポートを2006年に発行、2015年版から社会的責任の国際規格であるISO26000に基づき、常に時代をリードする先進的なCSR経営に取り組んでいます。

2016年版では「特集: Human Story」により、同グループが取り組む「人を重視する、人本主義」のCSR経営を知ることができます。この人本主義は、特集で報告された医療従事者、事務職員などを含めた同グループで働く全ての人々は勿論のこと、患者さん、地域住民、取引先の方々などに対する責任を示した考え方であり、『「ずーっと。」人と社会を支える』社会的使命が具現化されたものといえます。また、6名の総合職社員の『人財』が語るステークホルダー・ダイアログでは、同グループの組織風土や今後の課題、さらにはあるべき未来像から夢や希望が伝わり、医療と介護に取り組む革新的な「メディカル&ケア・ブランド」をめざす姿をうかがうことができます。

2. 渓仁会マネジメントシステムの「見える化」により、 求心力が高い組織として先進モデルといえます。

昨年度からレポートは、7つの中核主題をもとに編集 され、今年度は各主題のトップページでグループ全体 の項目を数値化してイラストと共に伝える工夫がなされています。また、7つの中核主題では、各項目で今年度の「Challenge(目標)-Action(実践)」が明示され、次年度以降のCSR経営に向けて全職員が一体となって取り組めるよう、Next Step(課題)を共通目標にその方向性が「見える化」されました。同グループがすすめるマネジメントシステム(KMS)が具現化されているといえます。

今後に期待する点

CSR経営を通じたイノベーションで、同グループと社会が「ずーっと。」 栄えることを祈念します。

CSR報告書には上記「CSR経営の見える化」に加えて、もう一つ重要な役割があります。それは同グループのCSR経営において「強み・弱み」を分析・評価し、今後の経営戦略課題として生かすことです。たとえば、ダイバーシティに配慮したマネジメントが組織の活力を高めるように、CSR経営を通じて自社の課題抽出とその対応を図り、イノベーションに結びつけることが重要な目的の一つでもあります。

そのためのベンチマークとなるガイドラインの一つとして 期待されているのがISO26000 (JISZ26000)です。同グループのCSR経営はISO26000に準拠しており、この比較・分析 により、今後3~5年の中・長期的な課題と、1~2年の短期的 課題が明確化され、継続的な改善に結びつけることが可能 となります。「ビジョン渓仁会2020」もその一環としてとらえる ことができます。明確にされた課題を組織全体で共有し、そ れらの課題解決に向けてグループー体となった活動がイノ ベーションに結びつきます。CSR経営を通じて同グループと 社会がより一層「ずーっと。」栄え続けることを心から祈念し ています。

【プロフィール】 (株) 資生堂を経て1999年駿河台大学に奉職、現在に至る。㈱アデランス社外取締役、経営倫理実践研究センター首席研究員、2010年ロンドン大学客員研究員他。著書:「サスティナブル・カンパニー:「ずーっと」栄える会社の事業構想』宣伝会議、「マーケティング倫理が企業を救う」生産性出版、「CSRで経営力を高める」東洋経済新報社、「セルフ・ガバナンスの経営倫理」千倉書房など

ISO26000対比表

渓仁会グループでは、社会的責任の国際規格であるISO26000を手引きとして、より確実にCSR経営を実行することをめざしています。 CSRレポート2016に掲載した取り組みを、7つの中核主題に分類すると以下の通りになります。

中核主題	課題	渓仁会グループ 行動基準項目	取り組み内容
組織統治	組織統治	すべて	渓仁会グループの社会的使命(P6) 渓仁会グループの事業理念(P7) 優れた取り組みを共有するために(P52) 「ビジョン渓仁会2020」の策定(P53) 渓仁会マネジメントシステム(KMS)を支える内部監査(P53)
人権	課題1:デューディリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題4:苦情解決 課題5:差別及び社会的弱者 課題6:市民的及び政治的権利 課題7:経済的、社会的及び文化的権利 課題8:労働における基本的原則及び権利	③人権尊重	誰もが多様な個性や能力を活かし、 生き生きと働くことができる組織をめざして(P35) 患者さんの身体や行動を抑制しないケアをめざして(P36)
労働慣行	課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護 課題3:社会対話 課題4:労働における安全衛生 課題5:職場における人材育成及び訓練	⑥教育研修 ①職場環境	体系的な研修制度による「人財」育成(P41) 学びの機運を高める渓仁会グループ研究発表会(P42) 適切に吸引を行うための院内認定制度を創設(P42) 職員のキャリアアップをめざす研修・諸制度(P43) 海外に学び、福祉を考える広い視野を養う(P43) PDCAサイクルで職員と家族の健康を維持・向上(P44) 職員・家族のための「医療福祉介護相談室WILL」(P45)
環境	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応 課題4:環境保護、生物多様性、及び 自然生息地の回復	⑩環境保護	「第2回渓仁会グループ エコびとエコもの表彰」(P49) 継続して10回目「おたるドリームビーチ清掃活動」(P50) 森づくりを職員から利用者さん、そして次世代へつなぐ(P50) 省エネルギーな設備で、施設運営の環境負荷を低減(P51) 病院も環境に配慮した施設へ(P51)
公正な事業慣行	課題1:汚職防止 課題2:責任ある政治的関与 課題3:公正な競争 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 課題5:財産権の尊重	④順法精神	大切な個人情報を守るための取り組み(P47) 外部ステークホルダーの声(P47)
消費者課題	課題1:公正なマーケティング、事実に即した 偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題4:消費者に対するサービス、支援、 並びに苦情及び紛争の解決 課題5:消費者データ保護及びブライバシー 課題6:必要不可欠なサービスへのアクセス 課題7:教育及び意識向上	①顧客満足②品質管理⑤技術変革⑦チームワーク⑧情報公開②個人情報保護	特集 Human Story 私たちのAction(P8~13) 新棟完成でより質の高い医療を実現——Tプロジェクト(P17) 道央地域の生命を守り、支える道央ドクターへリと 救命救急センターの取り組み(P18) 東日本大震災から5年、節目に振り返る渓仁会グループの 震災支援と災害への備え(P19) より質が高く、快適な医療環境へ——Nプロジェクト(P20) サービスの向上をめざしハード・ソフト面をリニューアル(P21) ご自宅への復帰に向けた支援体制の構築(P22) 楽しみながら健康づくり「介護予防サロンりはる」(P23) 生活・環境インフラのプロデュース(P23) ホームヘルパー活動の質向上へ(P23)
コミュニティへの 参画及び コミュニティの 発展	課題1:コミュニティへの参画 課題2:教育及び文化 課題3:雇用創出及び技能開発 課題4:技術の開発及び技術へのアクセス 課題5:富及び所得の創出 課題6:健康 課題7:社会的投資	⑨地域重視	地域の高齢者の健康を支え、活性化を図るサービスの創出へ(P29) 認知症の方が、安心して地域で暮らしていくために(P30) 小児在宅医療の普及をめざし、人と情報をつなぐ(P31) 高齢者の医療や認知症について学び語れる機会を(P32) 利用者さんと地域を結ぶコミュニティホーム美唄の取り組み(P32) 交流を通して、福祉に携わる未来の『人財』を育成(P33) 「なるほど身になる福祉講座」で施設をもっと身近に(P33)





【1次·2次·3次救急】

日本の救急医療体制は、都道府県が策定す る医療計画に基づき、患者さんの重症度に応 じて3段階の体制をとっています。

1次救急は初期救急ともいい、入院や手術を 伴わない軽症の患者さんへの診療を受け持 ち、休日夜間急病センターや在宅当番医が行 います。

2次救急は、一般病棟への入院を必要とする ような患者さんへの診療を担当します。いくつ かの病院が当番日を決めて受け持つ病院群 輪番制や、中核となる施設に当番の医師が集 まる共同利用型病院方式があります。

3次救急は、重篤な疾患や多発外傷など2次 救急では対応できない診療を受け持ちます。 救命救急センターや高度救命救急センターが 担当します。

【2025年問題】

2025年にはベビーブーム世代(団塊の世代) が75歳以上の後期高齢者となり、高齢者人 口が3,500万人に達すると推計されています。 それにより医療費と社会保障費は増加するほ か、高齢者の住居や介護などたくさんの問題 が生まれると予測されています。



【(地域)医療連携】

地域にあるさまざまな医療機関が自分たちの 機能や特色を明確にし、役割分担をしながら、 互いに協力・連携して治療に取り組む医療体 制のこと。医療機関は得意分野に専念するこ とができ、患者さんはスムーズに質の高い医療 サービスを受けることができます。

【インフォームドコンセント】

医師が患者さんに対して治療方法などの説明 を行い、正しく理解してもらったうえで、納得と 同意を得ること。患者さんの意思を尊重するた めの概念です。

【ADL(エー・ディー・エル)】

「Activities of Daily Living」の略で、日本語 では日常生活動作といいます。食事や移動、 排泄、入浴といった日常生活に必要な最低限 の基本動作のことで、こうした動作ができるか どうかが、高齢者や障がいを持つ人の動作能 力を判定する指標になります。

【エビデンス】

医学的根拠のこと。治療法、薬剤、検査方法な ど、「それが良い」「勧められる」という根拠を、臨 床データなどを基にして示すことをいいます。

【介護老人福祉施設】

心身に重い障がいがあるため常時介護が必 要で、ご自宅での生活が困難な65歳以上の 利用者さんに、看護や介護、リハビリテーショ ンなどを提供する施設。原則、要介護度3~ 5と認定された方が対象になります。一般には 「特別養護老人ホーム」と呼ばれています。

【介護老人保健施設】

介護が必要な利用者さんがご自宅に復帰でき るように、看護や介護、リハ ビリテーションなどで支援

する施設。介護 になります。

保険の被保険者 で、入院治療の 必要がない要介 護度1~5と認定 された方が対象

【回復期病院】

生命の危機から脱して症状が安定し、在宅復 帰をめざす段階の患者さんを対象にした病院 のこと。特に「回復期リハビリテーション病院 (病棟) は、主に脳卒中や脊椎・骨盤骨折な どの急性期治療を終えた患者さんに、専門的 なリハビリテーションを提供します。

現在、日本各地で回復期の病床が不足してい ます。回復期リハビリテーション病棟に限らず、 急性期から在宅復帰までの治療や、慢性期か らの急な増悪(症状の悪化)に対応する機能 を持つ、幅広い回復期の病床が求められてい ます。そこで、必要量以上に病床がある急性 期病院から、回復期病院への機能転換が急 がれています。

【かかりつけ医】

風邪や発熱など、さまざまな病気の初期症状 に対応し、日常から健康状態の把握やアドバ イスを行う身近な存在の医師のこと。必要が あれば、適切な治療が受けられるように専門的 な医療機関を紹介し、患者さんの情報提供な どを行います。



【カテーテル】

血管や尿管などに挿入して、治療や検査、体 液の排出などを行うための細く柔らかい管。手 術を行わずに治療などができるため、身体への 負担がかかりにくく、心臓や脳、血管、消化器 など、幅広い分野で普及が進んでいます。

【カンファレンス】

病院内で開かれる症例検討会のこと。担当す る症例を持ち寄り、診断や治療方法について 幅広い視点から話し合います。医師同士のほ か、他職種を交えて行うチームカンファレンスな どもあり、スタッフ間の情報共有の場としても 活用されています。

【緩和ケア】

患者さんの心身の苦痛を取り除き、できるだけ 安楽に過ごしていただくことを目的にした医療 的な処置のこと。多くは末期がんなどで余命が

短い方に対して行われます。入院に限らず、ご 自宅や通院でも対応し、ご本人やご家族の要 望を重視しながら、充足した時間を過ごしてい ただけるように支援します。

【QOL(キュー·オー·エル)】

「Quality Of Life(生活の質)」の略。精神面 や身体面なども含めたその人らしい豊かな生 活(人生)、という概念。医療や福祉の世界で は、患者さんや利用者さんの価値観を尊重し ながら、その人らしく生きることを支えるという考 え方としても使われます。

【急性期病院】

病気の発症から急激に症状が進み、重症な 状態にある患者さんに対して、入院や手術な どの専門的で高度な医療を行う病院のこと。

【クリニカル・パス】

患者さんが入院してから退院するまでの検査 や手術、リハビリテーションなどのスケジュール をまとめた診療計画表のこと。クリティカル・パ スともいいます。患者さんと医療者側の双方 が、意識や情報を共有し、スムーズな治療をめ ざすためのものです。

【グループホーム】

病気や障がいを抱える人たちが、福祉サービス の支援などを受けながら、地域において、少人 数単位の集団で生活するケアの形態。日本 では介護保険の給付対象になっていることか ら、認知症の高齢者を対象にした居住型施設 という限定的な意味でも使われています。

【ケアマネジャー】

介護支援専門員ともいいます。介護が必要と 認定された方が適切なサービスを受けられるよ うに、介護サービス計画(ケアプラン)を作成し ます。在宅介護サービス事業者や福祉施設、 行政機関などとの連絡役を果たし、利用者さん とご家族を支えます。

【血管造影】

動脈から挿入したカテーテルを経由して目的の 臓器にX線を透過しない造影剤を入れ、血管内 部の状態が見えるように撮影する方法です。

【高度急性期病院】

急性期病院の中でも、特に重症な患者さん を引き受け、高度な医療技術を伴う診療を 提供する病院のことです。具体的には、救 命救急病棟や集中治療室、ハイケアユニット (HCU)、新生児集中治療室(NICU)、小児 集中治療室(PICU)といった、急性期の患者 さんに特に密な治療を提供できる病棟や、そ の機能を有する病院が該当します。

【誤嚥】

食べ物や飲み物などを飲み込む際に、食道で はなく誤って気管に入ってしまうこと。飲み込む 力が弱くなった場合などに起きやすくなります。 食べ物などが気管に入ると肺炎になったり、窒 息の原因になることもあります。

【コメディカル】

医師と歯科医師以外の、医療に携わる専門 職種の総称。看護師、薬剤師のほか、リハビリ テーションを行うセラピスト、歯科診療にかかわ る歯科衛生士、検査業務を担当する臨床検 査技師など、数多くの職種が含まれます。



【災害拠点病院】

災害時の初期救急医療体制の充実強化を 図るための医療機関。24時間いつでも災害 に対する緊急対応ができ、消防機関と連携 し、傷病者の受け入れ・搬送をヘリコプターな どで実施できるなど、必要な機能が定められて います。

【災害派遣医療チーム(DMAT)】

発生から間もない災害急性期(おおむね48 時間以内)に、被災地や事故現場に入り医 療活動を行える機動性を持つ、専門的な訓 練を受けた医療チームです。医師、看護師、 事務職員で構成され、Disaster Medical Assistance Teamの頭文字を取ってDMAT (ディーマット)と呼ばれています。

1995年の阪神・淡路大震災で、初期医療体 制の遅れから被害が広がったことを教訓とし、 まず日本DMATが2005年に発足。現在では 高度な救急機能などを持つ各医療機関でも DMATが結成されています。

【在宅ケア(医療)】

患者さんのご自宅で提供する医療のこと(自宅

には、サービス付き高齢者住宅にお住まいの 場合も含まれます)。

特に、症状の重い患者さんがご自宅での生活 を続けられることを目的に行う、訪問診療や訪 問看護などを意味する場合もあります。



事業所で労働者が健康・快適な状態で業務が できるよう、専門的な指導と助言を行う医師。 産業医となるためには、厚生労働大臣が定め る産業医研修の修了者、労働衛生コンサルタ ント試験合格者など、産業医となるための要件 のいずれかをクリアする必要があります。

【シームレスサービス】

「シームレス」とは継ぎ目がない、という意味。 渓仁会グループでは、医療、保健、福祉サービ スを途切れることなくつなぎ、スムーズに提供し ています。これはグループ内にとどまらず、外部 の医療機関や福祉施設、行政機関とも連携 を深め、スムーズなサービスの提供をめざして います。

【自由診療】

健康保険が適用されない診療のこと。認可前 の新薬の使用や、最先端の診療を受けること が可能ですが、全額が自己負担になります。

【終末期】

治療での回復の見込みがなく、数週間から数 カ月以内に死亡が予期される状態になった時 期。ターミナル期ともいいます(次ページ「ター ミナルケア | の項参照)。

【紹介状】

正式には診療情報提供書といいます。かかり つけ医などから、より高度な医療を提供する医 療機関に患者さんを紹介する際、症状や診 断、治療経過などを明記し、スムーズに治療が 引き継がれるようにするためのものです。

2016年4月からは、紹介状なしで大病院(特 定機能病院や、一般病床500床以上の地域

64 | 渓仁会グループCSRレポート2016 渓仁会グループCSRレポート2016 | 65



医療・保健・福祉サービスの用語集

医療支援病院)を初診で受診した場合、診察料とは別に特定療養費がかかります。これは初期診療を受け持つ医療機関と高度医療を行う 医療機関の役割分担を促すという目的からの

【小規模多機能型居宅介護】

通い(デイサービス)を中心に、必要に応じて 訪問介護やショートステイを組み合わせて利用 できる地域密着型の介護保険サービスです。

ばよくそう

ものです。

病気などで長期間、寝たきりになっていたため に、腰やお尻、手足などの皮膚が圧迫されて 壊死を起こした状態。床ずれともいいます。

【侵襲】

けがや手術などの治療、検査などの外部から の刺激によって、痛みや発熱、出血など体へ の負担がもたらされること。

【ステント】

金属製の網状となったチューブのことで、血管などの中に置くことで、狭まったり、詰まって閉じたりすることを防ぎます。

【セカンドオピニオン】

現在かかっている病院での診断や治療方針 について、それが適切かどうかを判断するため に、他の病院の医師の意見を聞くこと。

【摂食・嚥下】

摂食は食べ物を摂ること。嚥下は食べ物を口から飲み込んで胃まで運ぶまでの機能のこと。 高齢者などに多い摂食・嚥下障害は、この機能が正常に働かず、食べ物や飲み物がうまく飲み込めなかったり、誤って気管などに入ってしまう(「誤嚥」の項参照)症状のことをいいます。

【セラピスト】

リハビリテーション(次ページ「リハビリ」の項参照)を担当する専門職のこと。さまざまなセラピストがいますが、以下の3職種が中心となります。

●理学療法士(PT)

主に身体機能の回復や維持を目的としたリハ ビリテーションを提供します。歩行訓練や体操 などの運動療法、患部を温めたり電気刺激を 当てたりする物理療法を実施し、住宅改修の アドバイスなども担当します。

●作業療法士(OT)

趣味的な活動や日常生活動作(P64「ADL」の項参照)の訓練などを通して、身体や精神に障がいがある人や高齢者などにリハビリテーションを行います。精神面への働きかけも重視して、その人らしい生活が送れるよう支援します。

●言語聴覚士(ST)

話す・聞く、言葉を理解するといった言葉のコミュニケーションに障がいがある人へのリハビリテーションを実施します。脳卒中による失語症や発声障害、摂食・嚥下障害のケアなどにも携わります。

【専門看護師】

特定の医療分野で、熟練した技術で看護を実践する看護師。特定分野の経験と大学院修士課程の修了の後、日本看護協会が実施する試験に合格すると資格が得られます。がん看護、精神看護、地域看護、老人看護、小児看護、家族支援など11の分野が特定されています。

【ソーシャルワーカー】

生活上や身体上などの問題を抱えている人を、相談やアドバイスによって支え、社会復帰や自立した生活に向けて援助する役割の総称。医療、保健、福祉などの専門的な知識を持つ専門職で、医療機関ではメディカルソーシャルワーカー(MSW)と呼ばれます。



【尊厳死】

余命が短いと診断された患者さんが、延命を 図るためだけの医療的な処置を受けることを 望まず、人間としての尊厳を保ちながら人生を 終えられること。医療者側は、何よりも患者さん (とご家族)の意思を尊重して、安らかな最期 を迎えられるように支えます。

【ターミナルケア】

終末期の患者さんに対する医療や看護、介護 などのこと。延命的な医療処置よりも、苦痛や 恐怖を取り除き、患者さんがその方らしさを保ち ながら人生を終えられるようにするためのケア を中心に提供します。

【地域医療構想】

2025年を前に、医療・介護需要の増大に対し、医療資源や人材不足などさまざまな問題が発生しています。そこで各都道府県では、地域の医療需要の将来推計や、報告された情報を活用して医療機能の将来の必要量を定め、その地域にふさわしい、バランスのとれた医療提供体制をつくるための構想を2015年度から策定しています。

地域医療構想に従って、各医療機関は高度 急性期・急性期・回復期・慢性期の4つの機 能に分化し、行政や福祉を含めた連携体制を つくります。そして患者さんにふさわしい機能の 病床で質の高い医療サービスを受けられるよう にします。

【地域医療支援病院】

患者さんの身近な地域で医療が提供されることが望ましいという観点のもと、かかりつけ医・かかりつけ歯科医を支援し、地域医療を確保する能力・設備を備える役割を担い、高度医療・専門医療を提供する中核病院として都道府県知事により承認された病院です。紹介された患者さんに対する医療提供、医療機器の共同利用の実施などを行います。

【地域包括ケアシステム】

2025年をめどに、高齢者が可能な限り住み 慣れた地域で、自分らしい暮らしを最期まで続 けられるように構築された、地域の包括的な支 援・サービス提供体制。高齢者の尊厳を重要 視し、できるだけ自立生活を送れるように支援 します。

【地域包括ケア病棟】

高度急性期・急性期の治療が終わった後の

診療を担う「ポストアキュート」、自宅や介護施設などにお住まいの方の二次救急や持病の急性増悪(症状の悪化)などの治療に対応する「サブアキュート」両方の機能を兼ね備えた病床群です。在宅復帰へ向けたリハビリテーションなども担当し、地域に密着した診療を行います。

【地域包括支援センター】

地域の高齢者が安心して暮らせるように、総合的な支援を行う窓口。市町村、あるいは市町村から委託を受けた医療・福祉法人などによって運営されます。介護予防の観点から、自宅で生活される高齢者またはその家族の相談に応じ、医療・福祉サービスなどが適切に提供されるようにします。

【テクノエイド】

高齢者や障がい者の生活機能を補う福祉用 具のこと。特に近年は科学技術を応用した高 度な福祉用具の開発が活発であり、メーカー 技師や福祉用具プランナーなど従来の関係 者に加え、医師や看護師、リハビリスタッフな ど、あらゆる専門家がチームに参加し、福祉用 具の機能向上に励んでいます。

【特定看護師】

医師の手順書に基づいて、安全が確認された 一定の医療行為ができる看護師として制度化 が進んでいます。専門領域の看護系大学院を 修了しているため、医療行為を行うだけでなく、 医療、保健、福祉に幅広い知識を持ち、人々 の健康増進のために活躍します。

【特定健診/特定保健指導】

特定健診は生活習慣病予防のために2008 年度から始められた健康診査。成人病のリスクが高いとされるメタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防に重点を置いているため「メタボ健診」とも呼ばれます。この特定健診で危険度が高いと判定されると、特定保健指導によって食生活や運動などの指導を受け、生活習慣の改善をめざすことになります。

【トリアージ】

災害などで多くの負傷者が出た場合、症状に 応じて分類し、治療や搬送の優先順位をつけ ること。治療や搬送の効率 を高め、一人でも多くの重

を高め、一人でも多くの重 傷者を救うために必要な処 置として採用されています。



【認知症カフェ】

認知症の患者さんやそのご家族、地域住民と、医療や福祉の専門職の誰もが参加し集える場です。カフェのようにゆっくりお茶を飲みながら交流し、認知症に関する相談も可能です。札幌市では、一定要件を満たした認知症カフェを認証しており、札幌西円山病院「スマイルカフェ」はこの札幌市認知症カフェの第1号となります。

【認定看護師】

救急看護、皮膚・排泄ケア、集中ケア、緩和ケア、手術看護、摂食・嚥下障害看護、認知症看護など21の分野で、専門性の高い看護を実施する看護師です。特定分野を規定年数経験した後に研修を受け、日本看護協会が実施する試験に合格すると資格が得られます。

【病床】

病院や診療所の、入院者用のベッドのこと。 一般病床、療養病床、精神病床、感染症病 床、結核病床の5種類に分けられます。また、 一般病床・療養病床はその医療機能に応じ て、高度急性期病床、急性期病床、回復期 病床、慢性期病床という区別をし、地域にど の機能を担う病床がどれだけあるか、都道府 県ごとに把握されています。

【プライマリ・ケア】

身近にいて、さまざまな病気の診療や相談に対応してくれる医師(かかりつけ医)による総合医療のこと。プライマリ・ケアを行う医師は、専門のトレーニングを受け、あらゆる初期診療に対応できる能力を身につけています。

【ホスピスケア】

末期がんなど、治る見込みがない疾患の患者 さんから身体的・精神的な苦痛を取り除き、 尊厳を保ちながら最期を迎えることをめざすケ ア。緩和ケア(P64参照)ともいいます。

【慢性期病院(療養病床)】

急性期を過ぎ症状は安定したものの、経過の 見守りが必要で自宅復帰が難しい患者さん に、長期間にわたって入院・治療を提供する病 院のこと。

具体的には、入院医療を必要とする「医療療養病床」と、要介護認定を受けた方が介護保険を適用して療養する「介護療養病床」が該当します。ただし、介護療養病床は2017年

度末を期限として廃止が予定されており、施 設や他機能の病床への転換が進められてい ます。

【看取り】

病気になった人の世話をすること。または亡くなるまでそばで看病し、見守ること。最近は後者の意味で使われることが多く、自宅のほか、病院や福祉施設などで亡くなられる方への対応を指す場合もあります。

【メンタルヘルス】

精神(心)の健康、精神保健。生活や仕事の中で抱えるストレスが心の健康に影響し、40人に1人は心の病気を抱えているといわれます。特に職場でのメンタルヘルス対策が推進されています。

【ユニットケア】

自宅に近い環境で、少人数の入居者・介護スタッフと共同生活をしながら、一人ひとりの個性や生活のリズムに合わせた暮らしをサポートするケア。10人前後を1ユニット(生活単位)とし、プライバシーを守るための個室と、ユニット単位の居間を備えます。また、さまざまな活動もユニット単位で行います。

【予後】

治療後などの症状についての医学的な見通 し。病後の経過を指して使われる場合もあり ます。

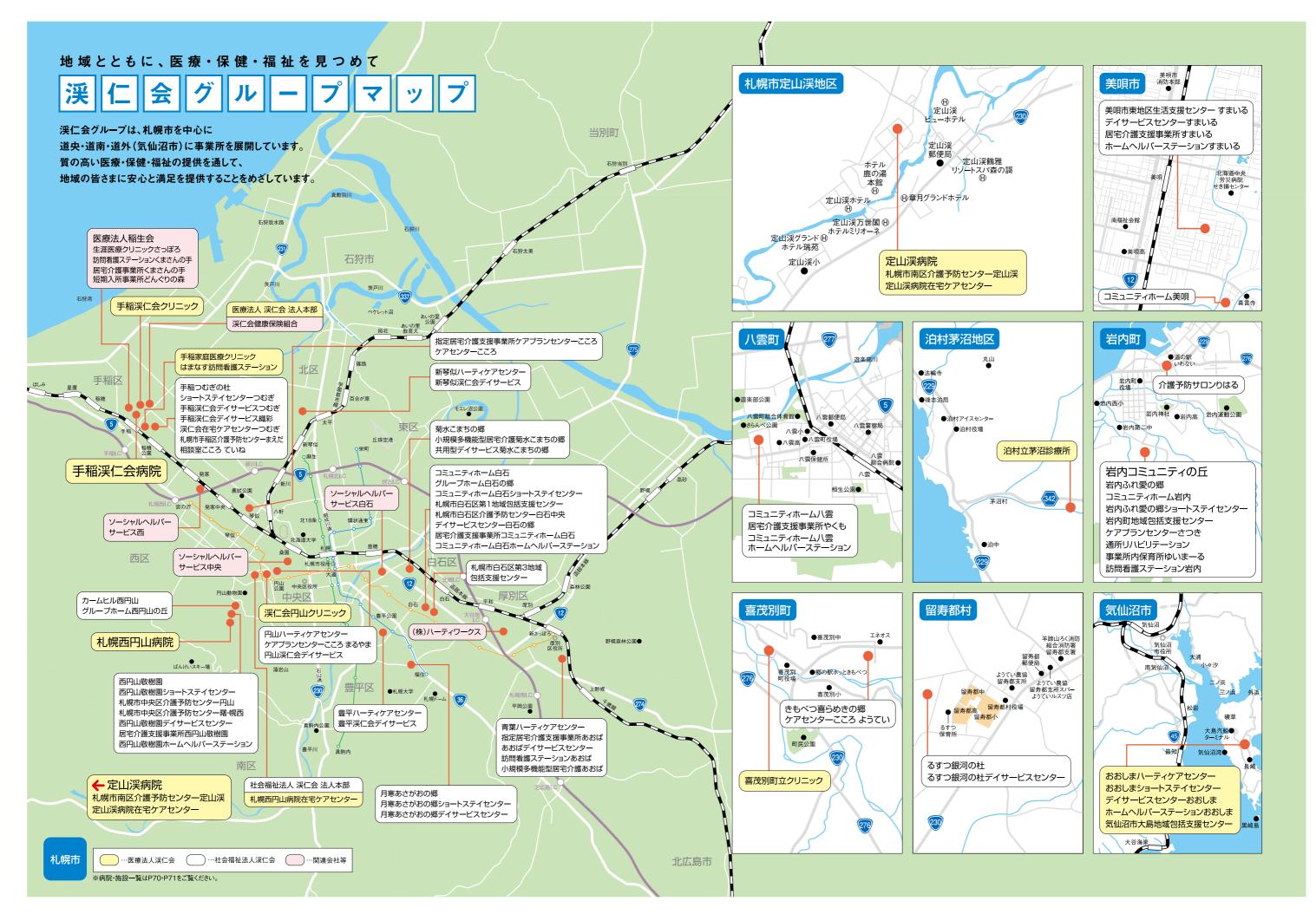
【リハビリ】

リハビリテーションの略。身体的な機能を回復 したり、障がいを軽減したり、症状が悪化しな いように維持するための訓練や治療のこと。



【レスパイト】

介護が必要な障がいを持った人を一時的に預かり、日常的に介護している家族が休息できるよう支援すること。家族の介護疲れを防ぎます。



渓 仁 会 グ ル ー プ ー 覧

高度急性期·専門医療 手稲渓仁会病院 手稲渓仁会クリニック 手稲家庭医療クリニック 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 札幌市手稲区前田1条12丁目1-40 札幌市手稲区前田1条12丁目2-15 ☎011-685-3920 **2**011-681-8111 **2**011-685-3888 長期療養が必要な方に、看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。 復期·慢性期医療 札幌西円山病院 札幌市中央区円山西町4丁目7-25 札幌市南区定山渓温泉西3丁目71 **☎**011-598-3323 **☎**011-642-4121 健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、予防に関するサービスを提供しています。 札幌市中央区大通西26丁目3-16 **☎**011-611-7766 ●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 日常生活に常時介護が必要で、自宅では介護が困難なお年寄りが入所し、食事・入浴・排せつなどの日常生活の介護や健康管理が受けられます。 岩内ふれ愛の郷 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 岩内郡岩内町字野束69-4 **☎**011-631-1021 ☎0135-62-3131 ●介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム) 10名が1つの生活単位(ユニット)として暮らし、顔なじみのスタッフが日常生活のお手伝いをします。 E稲つむぎの杜 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 **☎**0136-33-2711 **☎**011-685-3726 **☎**011-858-3333 ●地域密善型介護老人福祉施設 定員29名以下の小規模な介護老人福祉施設で、介護・看護・機能訓練等のサービスを提供するとともに地域や家庭との結びつきを重視した施設です。 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 虻田郡留寿都村字留寿都186-95 **☎**011-811-8110 **☎**0136-46-2811 ●介護老人保健施設 病状の安定期にあり、入院治療をする必要のない方に医療・保健・福祉の幅広いサービスを提供する、介護保険適用の施設です。 コミュニティホーム白石 ティホーム八雲 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 二海郡八雲町栄町13-1 美唱市東5冬南7丁目5-1 岩内郡岩内町字野束69-26 **☎**0137-65-2000 **☎**0126-66-2001 **☎**0135-62-3800 ☎011-864-5321 食事の提供、入浴の準備、緊急時の対応、健康管理および相談助言を基本サービスとして、自立の維持ができる施設です。 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 **☎**011-640-5500 ●認知症対応型共同生活介護(グループホーム) 認知症の方が、小規模な生活の場において食事の支度・掃除・洗濯などを共同で行い、家庭的な雰囲気の中で穏やかな生活を過ごせるよう支えます。 生活支援 グループホーム 白石の郷 ープホーム 西円山のE 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 **☎**011-864-5861 **2**011-640-2200 ●短期入所生活介護(ショートステイ) 事情により介護ができないときに短期間入所していただき、ご家族に代わって食事・入浴等日常生活のお世話をいたします。 ふれ愛の郷ショートステイセンター おおしまショートステイセンタ 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 宮城県気仙沼市廻館55-2 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 岩内郡岩内町字野束69-4 **☎**011-631-1021 **2**0226-26-2272 ●小規模生活単位型指定短期入所生活介護(ショートステイ) 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 ■ コミュニティホーム白石ショートステイセンター ☎011-685-3726 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 2011-864-5321 ●地域包括支援センター 高齢者の誰もが、住み慣れた地域でその人らしい尊厳ある生活を継続できるよう支援しています。 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 岩内郡岩内町字野束69-26 札幌市白石区本郷通9丁目南3-6 **23**011-864-4614 **☎**0135-61-4567 **☎**011-860-1611 宮城県気仙沼市砲錠55-2 **☎**0226-25-8570 介護予防 ●介護予防センター・介護予防サロン 高齢になっても、住み慣れた地域で、その人らしい自立した生活が継続できるように介護予防事業を行っています。 肺白石区 介護予防センター白石中央 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 礼幌市白石区本郷通3丁目南1-35 **☎**011-633-6056 **☎**011-633-6055 **☎**011-864-5535 センターまえだ 札幌市南区定山渓温泉西3丁目71 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 岩内郡岩内町字万代19-7

☎011 685 3141

☎080-2870-3186

最新の医療技術と機器を備え総合医療を提供しています。救急指定医療機関として、24時間・365日あらゆる疾患・外傷の患者さんを受け入れています。

●通所介護(デイサービス) 要支援1.2、要介護1~5と認定された40歳以上の方を対象に、食事や入浴、機能訓練や趣味活動などのサービスを提供します。 経済に会デイサービスつむぎ 札.幌市厚別区青葉町4丁目10-27 札.幌市手稲区前田2条10丁目1-7 札,幌市豊平区美園9条5丁目4-21 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 **☎**011-893-5000 **23**011-831-5000 **☎**011-632-5500 **2**011-685-2568 札幌市北区新琴似12条7丁目1-45 美唄市東4条南5丁目1-4 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 札幌市白石区本郷通3丁目南1-16 **☎**0126-66-2525 **☎**011-640-5522 **2**011-864-3100 **☎**011-763-5500 宮城県気仙沼市廻舘55-2 札幌市豊平区月寒西1条11丁目2-35 虻田郡留寿都村留寿都186-18 **☎**0226-26-2272 **☎**011-858-3333 **☎**0136-46-2811 ●小規模多機能型居宅介護 ●認知症対応型通所介護(デイサービス) 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 札幌市白石区菊水上町4条3丁目94-64 **☎**011-811-8110 **☎**011-895-5000 **☎**011-685-3328 **☎**011-811-8110 ●指定居宅介護支援事業可 介護支援専門員(ケアマネジャー)が、介護保険サービス利用の申請手続きや、ケアプランの作成など介護保険に関するさまざまな相談に応じています。 札幌市手稲区前田2条10丁目1-7 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F 札幌市南区定山渓温泉西3丁目71 **☎**011-685-2322 **☎**011-642-5000 **2**011-598-5500 宅介護支援事業所コミュニティホーム白石 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 札幌市中央区円山西町4丁目3-20 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 **☎**011-864-2252 **☎**011-644-7650 **2**011-893-8761 おおしまハーティケアヤンター 美唄市東4条南5丁目1-4 二海郡八雲町栄町13-1 宮城県気仙沼市廻舘55-2 **2**0126-66-2525 **☎**0137-65-2121 ☎0226-26-2272 アプランセンターこころ まるやま 民宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ 岩内郡岩内町字野束69-26 札幌市中央区北1条西19丁目1-2 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 **☎**0135-67-7801 **2**011-640-6622 **☎**011-632-0605 ●札幌市障がい者相談支援事業所・札幌市障がい者住宅入居等支援事業所 障がいがあっても、住み慣れた地域で自立した生活ができるよう、さまざまな相談に応じています。 札.幌市手稲区前田2条10T日1-7 **☎**011-685-2861 ●訪問看護ステーション 看護師がご自宅に訪問し、主治医の指示に基づき、医療処置・医療機器を必要とされる方の看護を行っています。

はまなす訪問看難ステーション 札幌市手稲区前田2条10丁目1-10 札幌市厚別区青葉町4丁目10-27 岩内郡岩内町字野束69-26 **☎**011-684-0118 **2**011-893-5500 **☎**0135-62-5030

●訪問介護(ホームヘルパーステーション) ご家族で介護を必要とされる方が、快適な生活を過ごせるようご家庭に訪問し、日常生活をサポートします。

ームヘルパーステーションすまいる 札幌市中央区円山西町4丁目3-21 札幌市白石区本郷通3丁目南1-35 美唄市東4条南5丁目1-4 **☎**011-644-6110 **☎**011-864-2008 **☎**0126-66-2525 コミュニティホーム八雲ホームヘルパーステーション ートヘルパーステーションおおしま 宮城県気仙沼市廻舘55-2 札幌市西区八軒1条西1丁目2-10 - 海郡八雲町栄町13-1 **☎**0137-65-2122 **☎**0226-26-2272 **☎**011-632-0605 ソーシャルヘルパーサービス西 ノーシャルヘルパーサービス中央 虻田郡喜茂別町字伏見272-1 札幌市白石区菊水8条2丁目2-6 札幌市中央区北7条西17丁目11 札幌市西区発寒8条10丁目4-20

福祉用具のレンタル・販売から、車いすのオーダーメイド製作・出張修理、住宅改修事業まで自宅での生活の安心を支えます。

■株式会社 ハーティワークス 札幌市白石区流通センター1丁目7-54 北新ビル1F ☎011-863-8010

公立診療所の指定管理者として地域の医療を支えます。

泊村立茅沼診療品 古宇郡泊村大字茅沼村711-3 **☎**0135-75-3651

喜茂別町立クリニック 虻田郡喜茂別町字喜茂別13-3 ☎0136-33-2225

地域医療

身体障がいを抱えた方の在宅療養を包括的に支援します。 医療法人稲生会

■生涯医療クリニックさっぽろ ■訪問看護ステーションくまさんの手 ■居宅介護事業所くまさんの手 ■短期入所事業所どんぐりの森 **2**011-685-2799 **2**011-685-2791 札幌市手稲区前田1条12丁目357-22(住所共通)

2011-685-2791

☎011-633-1771

2011-685-2791

渓仁会

医療法人渓仁会 法人本部

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2-30 渓仁会ビル3F/☎ 011-699-7500(代表)

▮社会福祉法人渓仁会 法人本部

〒064-0823 札幌市中央区北3条西28丁目2-1 サンビル5F/☎ 011-640-6767

23011-598-3311

「ずーっと。」 人と社会を支える



私たち渓仁会グループは、

社会的責任(CSR)経営を推進します。

高い志と卓越した医療・保健・福祉サービスにより、

「一人ひとりの生涯にわたる安心」と

「地域社会の継続的な安心」を支えます。

K渓仁会グループ

〒006-0811 札幌市手稲区前田1条12丁目2番30号 渓仁会ビル3F TEL 011-699-7500 FAX 011-699-7501

渓仁会グループホームページ

渓仁会グループ



http://www.keijinkai.com

